



一般社団法人 おおたスポーツコミッション 事業概要書

2022年2月



1. はじめに ～おおたスポーツコミッション設立にあたり～

2020東京五輪での日本選手団の活躍は、閉塞した社会において夢と勇気と希望を与え、スポーツの必要性和スポーツがもたらす効果は国民一人ひとりに深く刻まれました。

国のスポーツ基本計画の見直しに合わせて大田区でも「新スポーツ健康ゾーン」含め新たなスポーツ推進計画を策定中であり、また、ブラジル代表チームの事前合宿も決定し、まさに2020東京五輪に向けスタートをしております。

その中で、地域スポーツを支えている大田区体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、障害者スポーツ団体、地域スポーツクラブなど地域の各スポーツ団体が地域社会に果たすべき役割は、連携協働することで増幅されスポーツの振興にとどまらず、大田区のまちづくり「地域力」向上にとって今後ますます期待が大きくなるものと予測されます。

区内各スポーツ団体や運動施設が有機的・機能的に連携協働することで、大田区のスポーツ推進事業のさらなる発展とスポーツによる地域力の強化を「おおた未来プラン10年」・「スポーツ推進計画」に基づき展開することが、区民へのスポーツの普及に繋がるだけでなく、スポーツ健康都市おおた」さらには、スポーツを「国際都市おおた」の観光資源とし、地元企業と連携することによる地域経済への好循環の創出、地域包括ケアシステムや地域医療との連携で医療費の削減、区民はもとより地元企業における健康経営や働き方改革を含めた従業員の健康維持増進での生産性向上、元気高齢者づくりなど新しい地域課題に対しても大きな貢献ができるはずで

スポーツが秘める可能性を最大限に引き出し、**大田区に点在するスポーツ資源**の機能を高め、官民挙げてそれらを**コーディネート（繋げる・リエゾン）**する持続可能（SDGs）なプラットフォームとして「おおたスポーツコミッション」（OSC）を今ここに提案いたします。

2. 2020東京オリパラ後のスポーツレガシー

1. 東京五輪後の地域スポーツレガシー

- ①地域でのスポーツ資源を発掘し、繋ぐ連携ネットワーク(コーディネート)作り
- ②地域スポーツのソフトインフラ(公益財)の構築によるスポーツ環境づくり
- ③持続性(SDGs)のあるスポーツでの街づくり、コミュニティづくり
- ④有効的・効率的な情報流通と人材交流システム作り(人材育成含む)
- ⑤地域スポーツが地域の産業として雇用できるシステム作り

2. 地域スポーツとして

- ①スポーツを軸とした地域社会の問題解決型プラットフォーム(行政とパートナーシップ)
- ②テーマ型コミュニティの充実と地縁型コミュニティの融合で街づくり
- ③自己財源確保できる社会貢献事業体化(ex.スポーツコミッション)
- ④競技スポーツ(プロ・アマ)のサポーターとしての連携協働システムづくり
- ⑤トップアスリートのセカンドキャリアとしての地域受け皿づくり
- ⑥地域スポーツの産業化・事業化で安定雇用(指導者等)できる体制づくり
- ⑦超高齢化社会における元気高齢者作りと社会活動参画の受け皿作り
- ⑧地域企業や商店街等けん引するスポーツ・産業・文化振興の新たな複合拠点

※地域スポーツの社会的効果を第一に、経済的効果を付加する。画一的なものでなく、地域特性を十分に生かした方法で、地域独自に東京五輪後に向け構築する

3. 理念&存在意義

理 念

大田区基本構想や10年基本計画、スポーツ推進計画に基づきスポーツの普及振興に関する事業を行うことにより、区のスポーツ人口（する、みる、支える）を増やし、現存する地域のスポーツ財産を中心に関係機関を繋ぎ連携することによるスポーツの力で地域を活性化させるとともに、区民の健康で文化的な社会生活の基盤づくりへの貢献と大田区のスポーツビジネス（社会貢献事業）の発展に寄与し、全国にその効果を発信することを目指します。

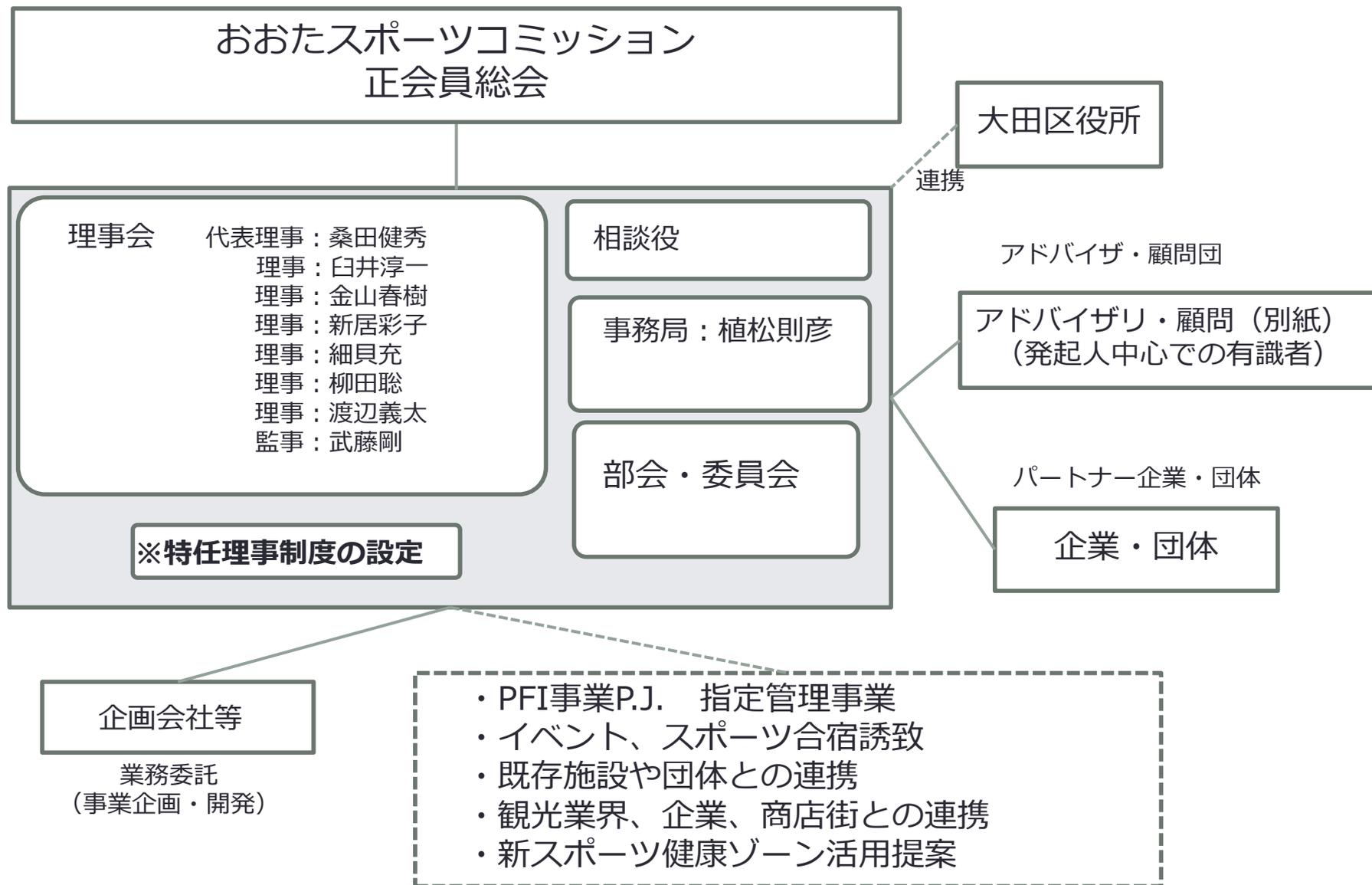
存在意義

- OSCは、スポーツのみならず、健康増進や街づくりを推進する全国のスポーツコミッションの実践事例をもとに、大田区にふさわしい具体的提案を関係機関に行います。
- OSCは、持続可能な経営基盤づくりのための財源確保と収益事業を民間企業等と協働で行うビジネスモデルを構築し、行政・企業等関係諸団体とともに地域スポーツが充実発展できる基盤を整備します。
- OSCは、スポーツを軸とした豊かな地域コミュニティの創造と区民の豊かで健康的な社会生活の構築に寄与します。

4. 組織概要

名 称	一般社団法人 おおたスポーツコミッション (OSC)
設 立 日	2017年12月4日 (月)
場 所	東京都大田区鵜の木二丁目八番四号 (株)金羊社内) 03-3750-2107 ホームページ : http://otasc.tokyo
理 事 (設 立 時)	代表理事 桑田健秀 理事 臼井淳一・金山春樹・新居彩子・細貝充・柳田聡・渡邊義太 監事 武藤剛
事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ団体間や組織間における事業的相互支援事業・スポーツビジネスに関する調査・研究事業・スポーツに係る諸団体との事業連携、提携、企画、販売事業・各種スポーツ教室やスポーツ大会・イベント等の企画・開催・運営事業・スポーツクラブ経営者および指導者等の研修事業・スポーツ指導者の派遣事業・スポーツ、文化施設の管理運営事業・スポーツ関連機器や商品、書籍等の販売事業・スポーツに関する代理店事業・スポーツ基金事業・前各号に掲げる事業に付随又は関連する事業

5. 体制



(一社)おおたスポーツコミッション発起人

東京商工会議所大田支部会長 ※	浅野 健	(株)金羊社代表取締役会長
セントラルスポーツ株式会社 営業本部アカデミー一部研究員	臼井 淳一	
2018年度東京JC大田区委員長	金山 春樹	ソニックス(株)常務取締役
大田区スポーツ審議会委員	桑田 健秀	NPO法人地域総合スポーツ 倶楽部・ピボットフット理事長
大田未来ビジョン委員会共同委員長 情報・サービス副分科会長	惟村 唯博	光写真印刷(株) 代表取締役社長
産経新聞東京本社特別記者論説委員	佐野 慎輔	
(一社)大田観光協会会長	田中 常雅	
学校法人片柳学園副理事長	千葉 茂	
学校法人上野塾東京実業高等学校校長	知念 義裕	
(公財)大田区体育協会理事長 ※	野川 春夫	順天堂大学特任教授
東京都立雪谷高校校長	原田 能成	
障がい者スポーツ指導者研究会理事長	森 相子	
(株)ジェイコム大田代表取締役社長	柳田 聡	
おおた地域スポーツクラブ ネットワーク会長	渡辺 義太	有限会社渡辺製作所 取締役

※は発起人代表

6. 主な事業内容

スポーツの有する社会的効果と経済的効果を追求し、スポーツを軸としたまちづくりと地域の活性化に寄与するため、核となる地域スポーツクラブの充実・発展を図り、関連団体や施設を「繋ぐ」事業を推進する。

主な事業内容

1. 企画提案

- 地域スポーツの財産をより具体的に繋ぐ事業的实践例や事業化に伴う意見や要望などを集約し関係機関や団体・事業体などに企画提案を行う。
- 各種事業の企画・立案を行う。

2. サービス提供

- 地域スポーツに対して、企業との連携を通じて、事業的なサービスや商材の提供を行う。
- 地域スポーツが有する魅力的な情報や商材を発信する。
- 地域スポーツと企業との仲介やイベントの企画運営を行う。

3. イベント・講習会の開催

- 国内外の最新情報、行政や各種団体による委託事業や助成事業などの事業化情報に関する講演会等を開催し交流を行う。
- 国内外のセミナー、スポーツ合宿の誘致等をスポーツツーリズムとして行う。

7. 活動実績 ①

1. 2017年度

①第一回おおた障がい者運動会開催 主催

2. 2018年度

①大田区わんぱく相撲 後援

②おおたJC国際交流イベント 後援

③第二回大田区企業対抗運動会 共催

④大相撲大田区場所 後援

⑤イベント学会大田区会議 後援

⑥クロスミントンJapan Open世界大会大田区開催(スポーツツーリズム実践モデル)

⑦障がい者「ニコニコスポーツ教室」9回開催

⑧大田区プロスポーツチーム懇談会開催



7. 活動実績 ②

3. 2019年度

- ①「Ota Sports United Project」構想発表(大田区スポーツ推進審議会に提案)
- ②「第一回・第二回・第三回おおた健康ウイーク」イトーヨーカドー大森店と協働開催
- ③第13回全国スポーツクラブ会議大田区開催(大田区MICE第一号案件)
- ④日本第二回おおた障がい者運動会開催 主催
- ⑤エアロビク連盟主催「世界大会」に運営ボランティア派遣
- ⑥クロスミントンアジア選手権大会 大田区開催(コロナで中止)
- ⑦ダンス療法フェスティバル開催(元気高齢者倍増計画・認知症なんかこわくない)



4. 2020年度

①「Ota Sports United Project」構想提案

- ・ 大田区青少年センターゆいっつベースキャンププロジェクト (2021年度開始予定)
- ・ おおたスポーツアカデミープロジェクト (")
- ・ バスケットボール競技をモデルに小中高等学校部活動の地域受け皿づくり
- ・ 小中学校運動施設有効活用デジタル化プロジェクト
- ・ おおたホッケーレガシープロジェクト
- ・ OTA PRO Sports Promotion

②第14回全国スポーツクラブ会議オンライン開催

③おおたスポーツ医科歯科・栄養実践コミュニティプロジェクト企画

④クロスミントンJapan Winter Doubles Open



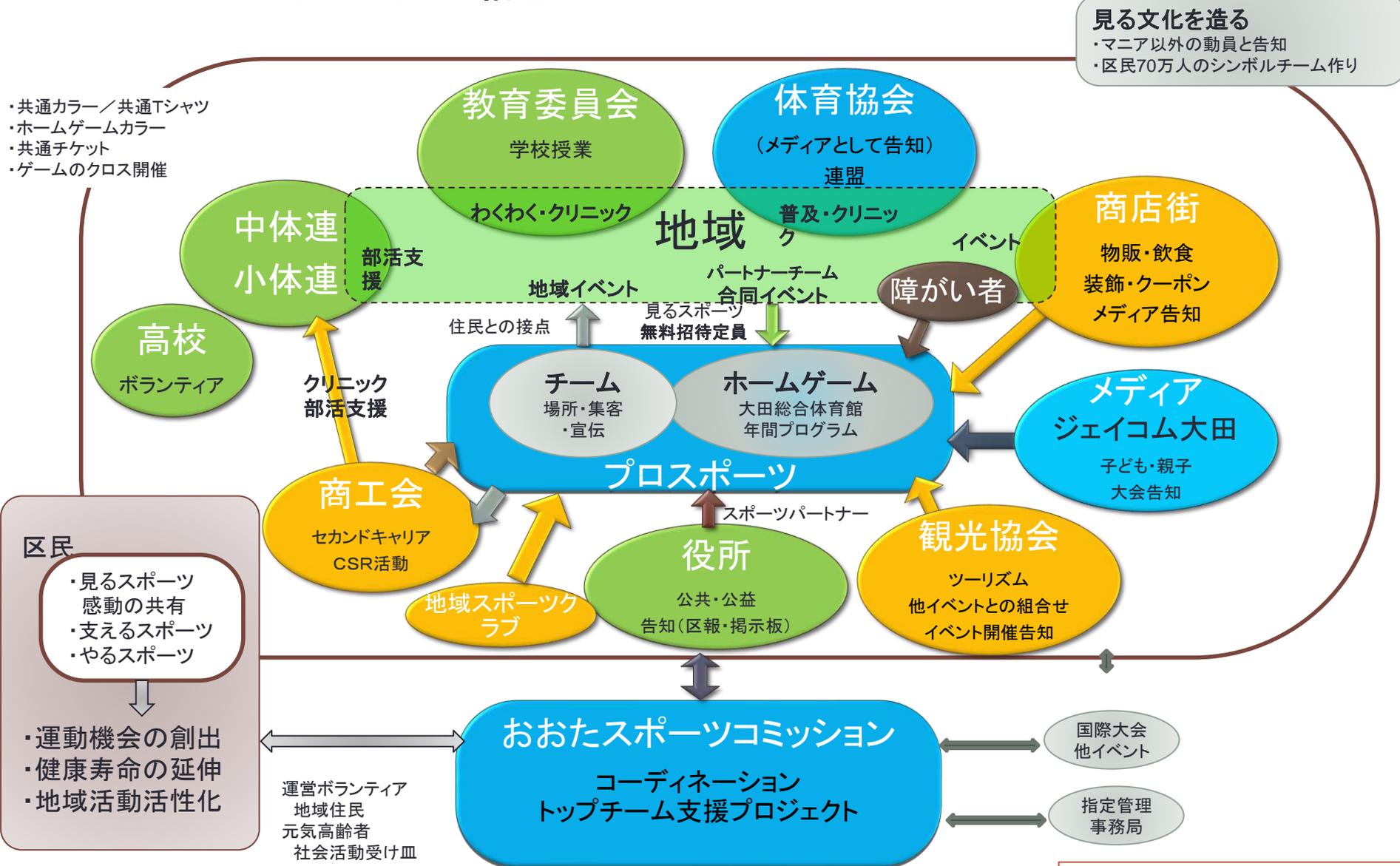
◎「おおたスポーツコミッション」OSCとは
 スポーツが秘める可能性を最大限に引き出し、大田区に点在するスポーツ資源の機能を高め、
 官民挙げてそれらをコーディネート（繋げる・**リエゾン**させる）する**プラットフォーム**です



障がい者スポーツ：運動会・継続的な場の確保 / 高齢者：健康体操発表会・認知症予防 / 青少年：教室 / 中学部活動：指導支
 援・運動嫌いな生徒対策 / 小学生体力強化：スポーツ鬼ごっこ・わんぱく相撲 / 地域：スポーツごみ拾い / 3 on 3 / フリースローコンテスト

スポーツを「ベース」としてハードとソフトのインフラを使って、世代と地域を機能的・効果的にリエゾンします

大田区スポーツブランディング構想



大田区プロバスケットボールチーム
 東京羽田ヴィッキーズ
 アースフレンズ東京Z

TOKYO2020LEGACY

「OTA SPORTS UNITED PROJECT」

～スポーツのある街・賑わいのある街大田～（案）

2019年12月12日

企画提案

公益財団法人大田区スポーツ協会理事
一般社団法人おおたスポーツコミッション理事長
桑田 健秀



理念

国際都市「TOKYO」の玄関口としての「大田区」を「OTA」として世界に発信。
区民70万人の地域コミュニティを核に、夢と希望と感動を共有する環境をつくる

背景

スポーツの持つ「力」を再認識、「夢」「希望」「感動」を共有共感

- ・ラグビーワールドカップ日本大会で経験した「ワンチーム」、世代・言語を超えた「人」の繋がり
- ・世界中に発信した日本のすばらしさ おもてなし
- ・大田区がホーム東京羽田ヴィッキーズから東京2020女子バスケットボール銀メダリスト輩出

目的

東京オリパラレガシーとして将来に残すべき遺産とは、

**スポーツを真ん中とした「人との繋がり」「感動の共有」「体験する喜び」を
シェアしコーディネートする仕組みを作り上げること**

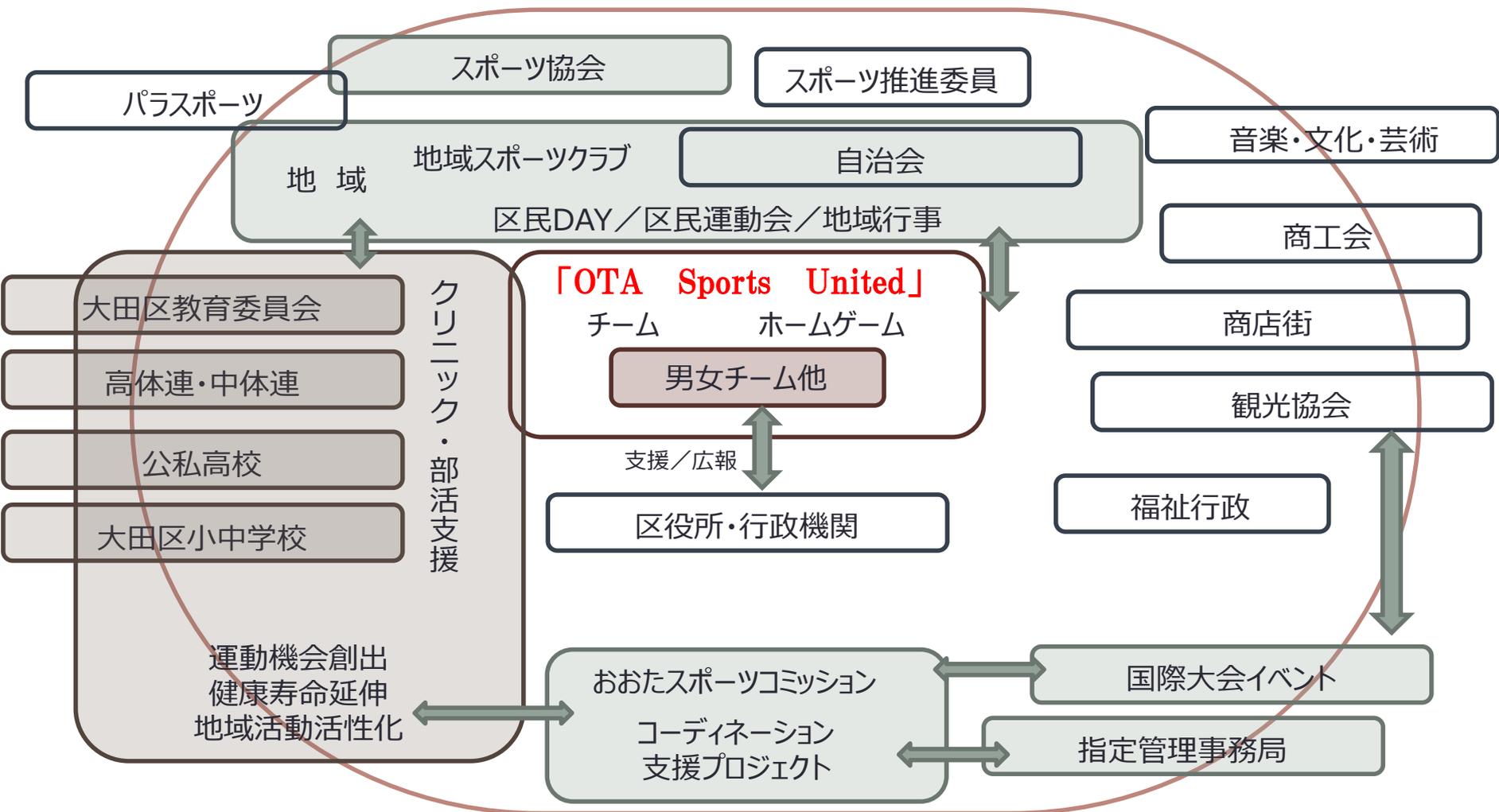
方法

大田区内に点在するスポーツや運動資源の機能を高め、官民挙げてそれらを繋げる・リエゾンさせた区民間の繋がりを作り、音楽、アート、ファッションを含めた文化醸成の場を作る。

大田区をバスケットボールの街に！！

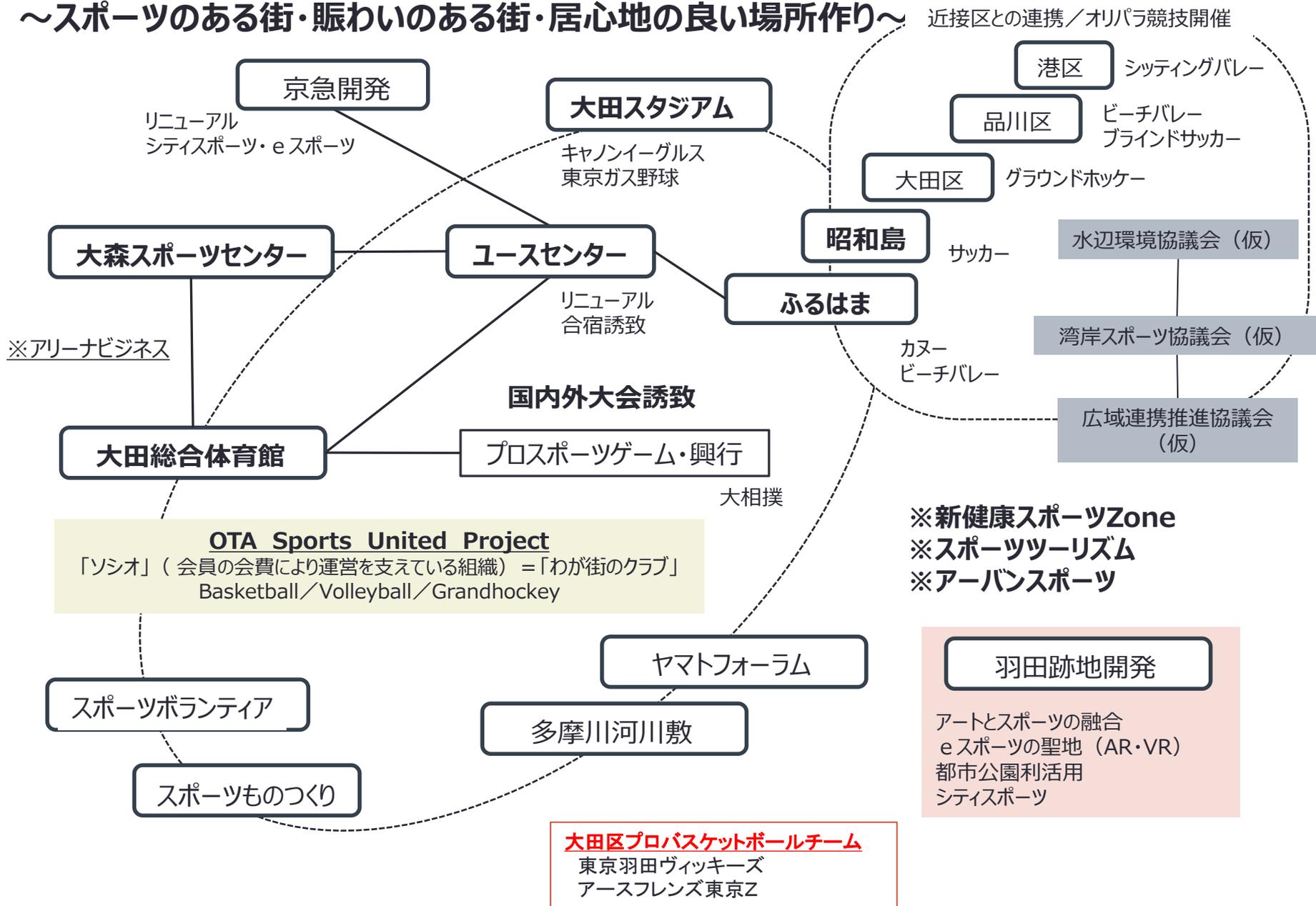
○「OTA Sports United」

- ・バスケットボールを中心にスポーツを区民共有財産へ
- ・区民球団を中核にスポーツブランディングを構築
- ・スポーツに関わる全ての人（ステークホルダー）との繋がり、連携

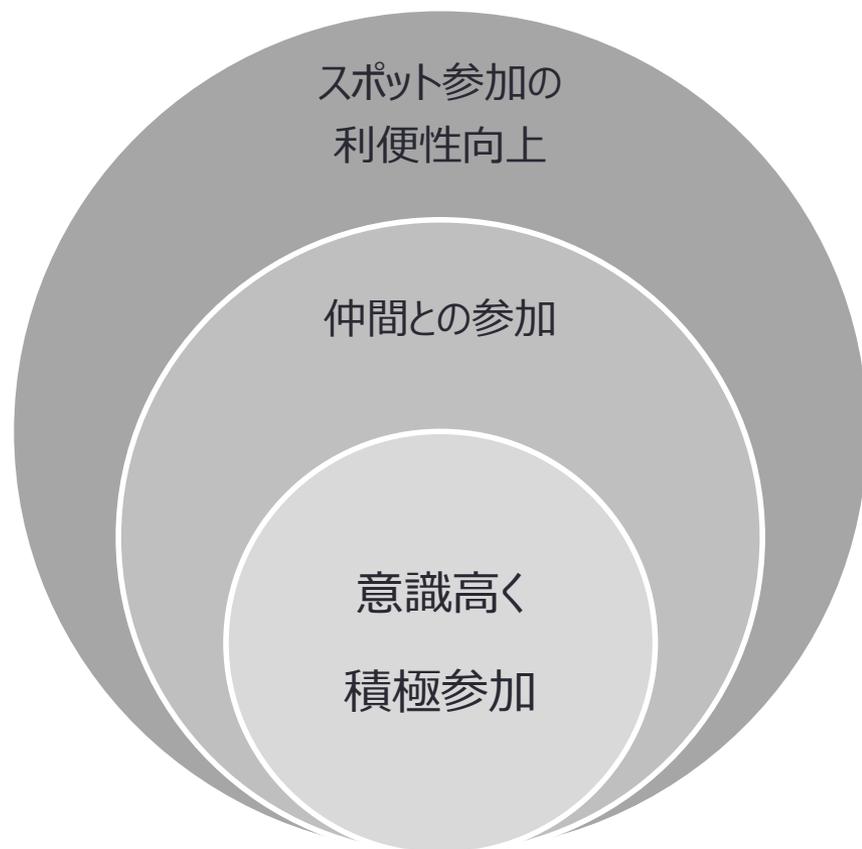


「OTA Sports United Project Map」

～スポーツのある街・賑わいのある街・居心地の良い場所作り～



東京2020オリパラレガシーへ持続可能な「しくみ作り」



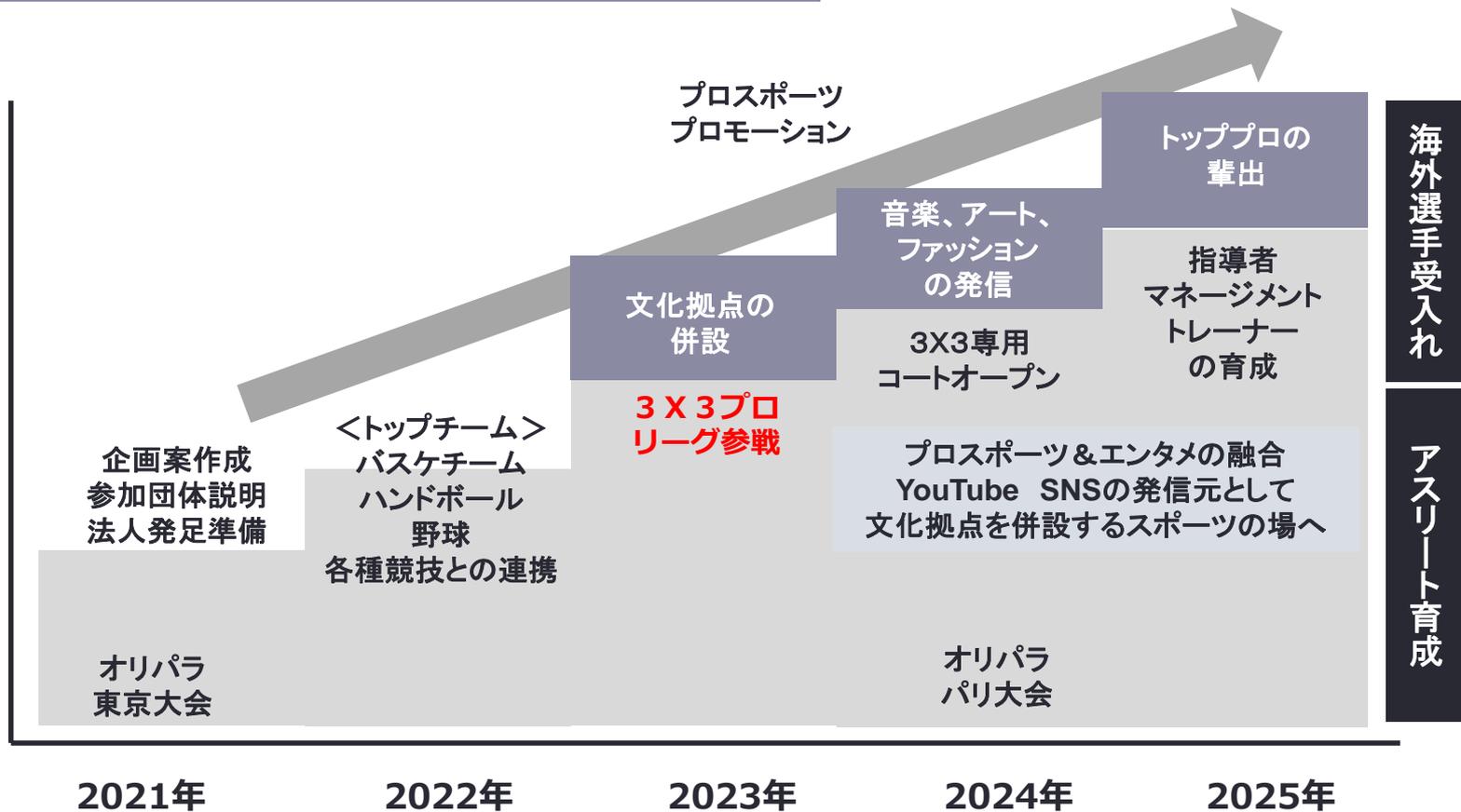
運動の習慣化、運動実施率の向上は、
「共通のコンテンツ・プログラム」を通して
「共通の体験」⇒「ユナイテッド参加」

「スポーツ実施率の向上」とは
スポーツ・運動体験の利便性向上

スポーツ・運動に関わる全てのリソース
を繋げていくこと（施設利用、競技参
加、指導者、大会、教室実施など）
⇒**スポーツリソースの「シェア」**

⇒**健康増進施策の推進**
「はねびよん健康ポイント」の実践場

将来ビジョン



<ビジョン> 大田区から「世界」へ

・アスリートのみならず、指導者、クラブマネージャー、トレーナー、メンタルトレーナーの領域のプロを「育成」いたします。

・3X3、プレイキン、パフォーマーの育成と2024パリオリパラやNBAへのアスリートの輩出を目指します。



アスリート・指導者・マネージャー



オリパラ
パリ大会

Project項目

実施

- ① OTA PRO Sports Promotion(2021年～実施)
- ② Ota Future Dreams Challenge Project(2022.4月スタート予定)
- ③ おおたバスケットボールアカデミー(2021年～実施)
- ④ 都立蒲田高校ダンス部地域応援提案(2021年～実施)
- ⑤ ゆいっつベースキャンププロジェクト(2021年～実施)
- ⑥ おおた企業スポーツ祭り(企業対抗運動会)(2018年～実施)
- ⑦ おおた障がい者運動会(2019年～実施)
- ⑧ クロスミントン国際大会(2017年～実施)
- ⑨ 大田区スポーツ医科歯科栄養の実践コミュニティ提案(2022年度予定)
- ⑩ イトーヨーカドー大森店との協働事業「健康ウイーク」(2018年～実施)
- ⑪ おおた地域スポーツネットワークと協働で区内スポーツの振興(実施中)

構想

- ① Ota B-Village (バスケットボール・ヴィレッジ)構想
- ② 大田ベースボールアカデミー(構想)
- ③ 小中学校施設有効活用プロジェクト(構想提案済)
- ④ 都立雪谷高校運動部活動地域応援提案(構想提案済)
- ⑤ 大田区ホッケー振興スキーム提案(構想)
- ⑥ おおたオンラインウォーキング提案(構想)

※推進に当たり前述した多岐に渡る役所関係部署や地域関係諸団体との調整がキーとなる

「OTA PRO SPORTS PROMOTION」

～おおたプロスポーツ プロモーションのご提案～
プロバスケットボールチームでの先行実践

東京羽田ヴィッキーズ Wリーグ
(バスケットボール女子日本リーグ)

アースフレンズ東京Z (B.LEAGUE)

キャッチフレーズ

- ・「大田区からオリンピック選手を」 ヴィッキーズ本橋選手に続け！！
- ・大田区に「3×3」のチームを
男女のバスケットップチームを有し、3X3のプロを備える唯一の都市へ
- ・大田区をバスケットボールの街に！！

理念

東京の玄関口としての「大田区」を「OTA」として世界に発信。

プロバスケットボールチームを区民70万人の地域コミュニティの核に、夢と希望と感動を共有する環境をつくる。

目的

スポーツを軸とした**コミュニティの大樹**を育成します

「幹 = 世代間交流」「枝葉 = 感動の共有・体験する喜び」

大田区内に点在するスポーツ資源の機能を高め、官民挙げてそれらを繋げ、

区民の共有話題を作り、**音楽、アート、ファッション**を含めた文化醸成の場を

プロモーションします

サポート体制

主催：一般社団法人 おおたスポーツコミッション

おおたプロスポーツプロモーション

東京羽田ヴィッキーズ Wリーグ
 (バスケットボール女子日本リーグ)
 アースフレンズ東京Z (B.LEAGUE)

協力：大田区、大田区教育委員会（小中学校・支援学校・障がい者施設）
 (予定) 大田区スポーツ協会、大田区バスケットボール連盟
 大田区ミニバス連盟、大田区中体連、スポーツ推進委員
 おおた地域スポーツネットワーク

東京商工会議所大田支部、大田観光協会、大田区商店街連合会

大田区総合体育館、大森スポーツセンター、ヤマトフォーラム等



区内バスケットボールファミリーが結集しサポート！！



集客サポート

<Bリーグ、Wリーグ公式戦サポート（ホーム開催ゲーム）>

- ・ **ホームゲーム観戦ご招待**（区内全小中学校に案内）
「地域貢献」枠 50名/1ゲーム
「バスケットボール普及学校」枠 2～3校/1ゲーム
- ・ **プロモーション応援グッズ販売/PR**
レディースDAYグッズ、未就学児向けミニユニフォーム
町内会名、ロゴ掲載の応援Tシャツ 応援マフラータオル など
- ・ **ハーフタイムパフォーマンス（チア・ダンス等）**
地域団体の活用/チーム専属地元チームの編成
- ・ **前座試合、試合前の活用**
フリースロー大会（景品争奪）、DJコンテスト、
バスケット大好き芸人によるお笑いステージ など
- ・ **バスケットボールフェスタの活用**
3X3 紹介、バスケットグッズ販売、即席のバスケット教室
- ・ **シーズン前の地域交流会**
- ・ **練習見学・練習試合の活用**



トップチーム選手、スタッフとの地域交流策

- ・ **出張バスケット授業「学校訪問、バスケット授業」**
トップチーム選手と指導者 技術、戦術、チームビルディング、体のケア方法
- ・ **ミニバス、中学部活訪問**
自主練習の方法、チームワーク、体験談、メンタルトレーニング
- ・ **地域イベント参加**
- ・ **区内小中学校生徒全員にトップチームのグッズ配布**
Tシャツ、サンバイザー、タオル、チームステッカーなど
- ・ **部活動受け皿**
部活動を退部した児童のフォローアップ
- ・ **首都圏発の男女プロバスケットチームによる「バスケットボール・アカデミー」**
バスケットボールを基軸にした、「技術／体力／語学」を指導
将来の国内海外留学を想定
- ・ **大田区観光大使** バスケットを通じた国内外でのアンバサダー

※今までの各チーム個別事業にオール大田として区内一般・全小中学校対象にプロモーション

国際都市「大田区」から世界へ向けて

- ・ **国際交流とジュニア育成**
アジア圏との選手コーチの交流
- ・ **ニューイヤークップ**
- ・ **アメリカでのバスケットボールキャンプへ参加**
米国バスケット留学、合同キャンプ、ホームステイ等
- ・ **3×3のチーム編成で裾野の広がり国際化を目指す**

※大田区のバスケットボールファミリーとして日本のバスケットボール界に貢献



「OTA Sports United Project」

「Ota Future Dreams Challenge Project」

のご提案

ーバスケットボールでのモデルケース作りー

おおたバスケットボール再編提案（バスケットボールの街大田区）〈B-Village構想〉**〈背景〉**

- ・大田区をバスケットボールの街に！
バスケ史上初の快挙 東京2020 女子バスケットボールチーム銀メダリストの誕生
東京羽田ヴィッキーズ所属 本橋菜子選手
全国でも稀な「男女」プロチームの存在が街づくりへの大きな期待と貢献
スポーツ振興による活気あふれる元気な街大田区へ（地域振興）
- ・教職員の働き方改革に伴う学校運動部活動の段階的地域移行の流れ
- ・大田区での「アンダーカテゴリー（U15、U12）」の編成ニーズと学校運動部活動との共生

主 旨

- ・バスケットボールを東京2020のレガシーのひとつの象徴として区内スポーツの社会インフラの再編に貢献する
- ・大田区内のバスケットボール関係団体の一体化でのムーブメントを推進する
- ・区内の児童生徒にとって安全安心で継続的に活動できる、良質な環境を整備する
- ・学校を包括した新たな地域スポーツ運営組織の構築を模索する
- ・スポーツ（楽しむこと）をファッション・アート・音楽と共に連携した街づくりを行う

Ota Future Dreams Challenge Project

(1) 区内プロチームの「U15」「U12」 カテゴリーチームを創出します

目的

- ◎ 小中学校の選手・指導者の育成
- ◎ プロチーム、他キャリア指導者の協力により、教育的視点での指導と、トップチームによるテクニカルな指導のバランス感を最適に活用し、バスケットボールの競技普及と競技技術の向上を行う大田区モデルを創出します。
(公共性と関係各団体のご協力を頂き、きめ細かい連携による選手(児童生徒)のフォロー)
- ◎ 他県・国際交流での体験強化
- ◎ スポーツ理論や医科学的な観点も提供

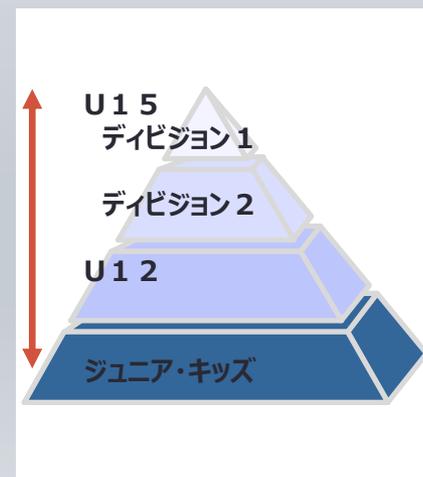
※前提として

小中学校の行事、部活動を阻害するものではなくその運営方針をベースとした地域連携を行います。地域エリアごとでの小中校連携もテーマとなります。

アンダーカテゴリーの編成

トッププロチームと連携した育成を主としたU12・U15カテゴリーチームの編成

- ・毎月1回～2回の合同練習や交流試合を実施することで選手と指導者の経験を積む
- ・地元プロチーム各ホームゲーム前座での試合や練習会



アンダーカテゴリーの編成要件

- ・定員制
- ・選手は区内在住者で広く募集、人数多数の場合は複数チームの編成も検討
- ・大田区内の中学校、ミニバスクラブからの希望者、未経験者も含む
- ・活動は毎月1、2回を予定 対外試合、合宿等は夏冬休みに年1回の開催
- ・経費は自己負担を原則とする（会場費、コーチ料、遠征費等）
- ・指導スタッフは、プロチームのコーチを中心にキャリア指導者と小中学校コーチの希望者
- ・対象年齢 15歳以下と12歳以下
- ・日程が重なった場合、自チームの活動は優先させる

運営組織

主催：おおたスポーツコミッション

共催：羽田ヴィッキーズ、アースフレンズ東京Z、NPO法人ピボットフット

後援：大田区スポーツ協会、大田区バスケットボール協会（全て予定）

協力：大田区中学校体育連盟バスケットボール専門部、
大田区ミニバスケットボール連盟、大田区スポーツ少年団
大田区地域スポーツクラブネットワーク（全て予定）

主管：NPO法人ピボットフット事務局



具体的活動 2022年（令和4年）5月始動

2022年4月に区内公募し男女各チームで編成する

ディビジョン①チーム

メンバー定員 25名

月に1度の活動 練習・対外チームとのゲーム

地元プロチームホームゲーム前座（イベント）への出場

遠征・合宿（夏季冬季休暇時、年1回）

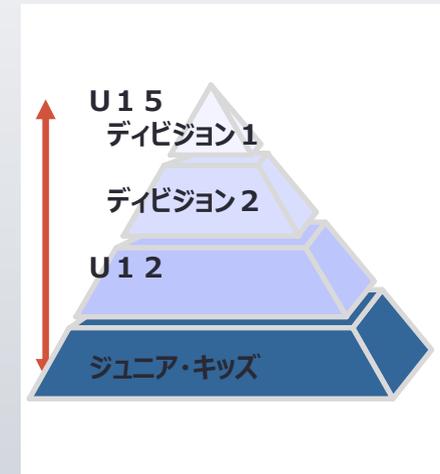
指導者の参加者希望受付

ディビジョン②チーム

メンバー25名程度 ディビジョン①チームへの選出に漏れても
次回のチャレンジ可能なメンバー

月に一度の活動、対外チームとのゲーム

未経験者、熱意ある選手のフォローアップ指導

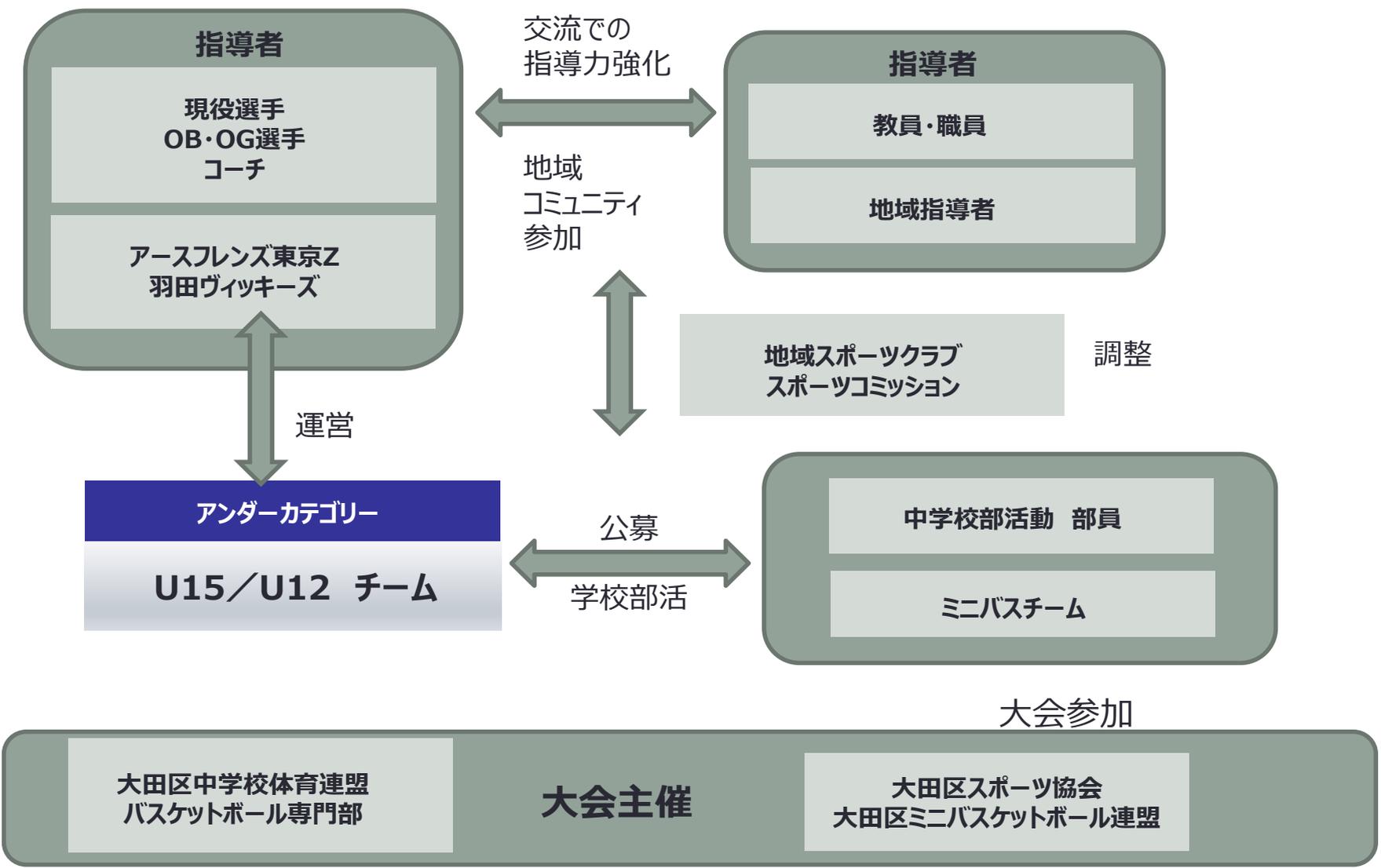


課題

- ・定期的に活動できる体育館の確保（指導場所の安定的確保、区内イベントとの調整）
- ・プロ指導者の確保
- ・運営組織、財政、組織マネジメント、事務局の設置

アンダーカテゴリーと関係団体 集散の構図

東京2020 女子バスケットボールチームの「銀メダル」の成果をレガシーとして残していくために
大田区内選手とコーチに対する「良質な環境の提供」によって競技レベルの底上げの切っ掛けをつくる



「おおたスポーツ・アカデミー」

「おおたバスケットボール・アカデミー」
のご提案

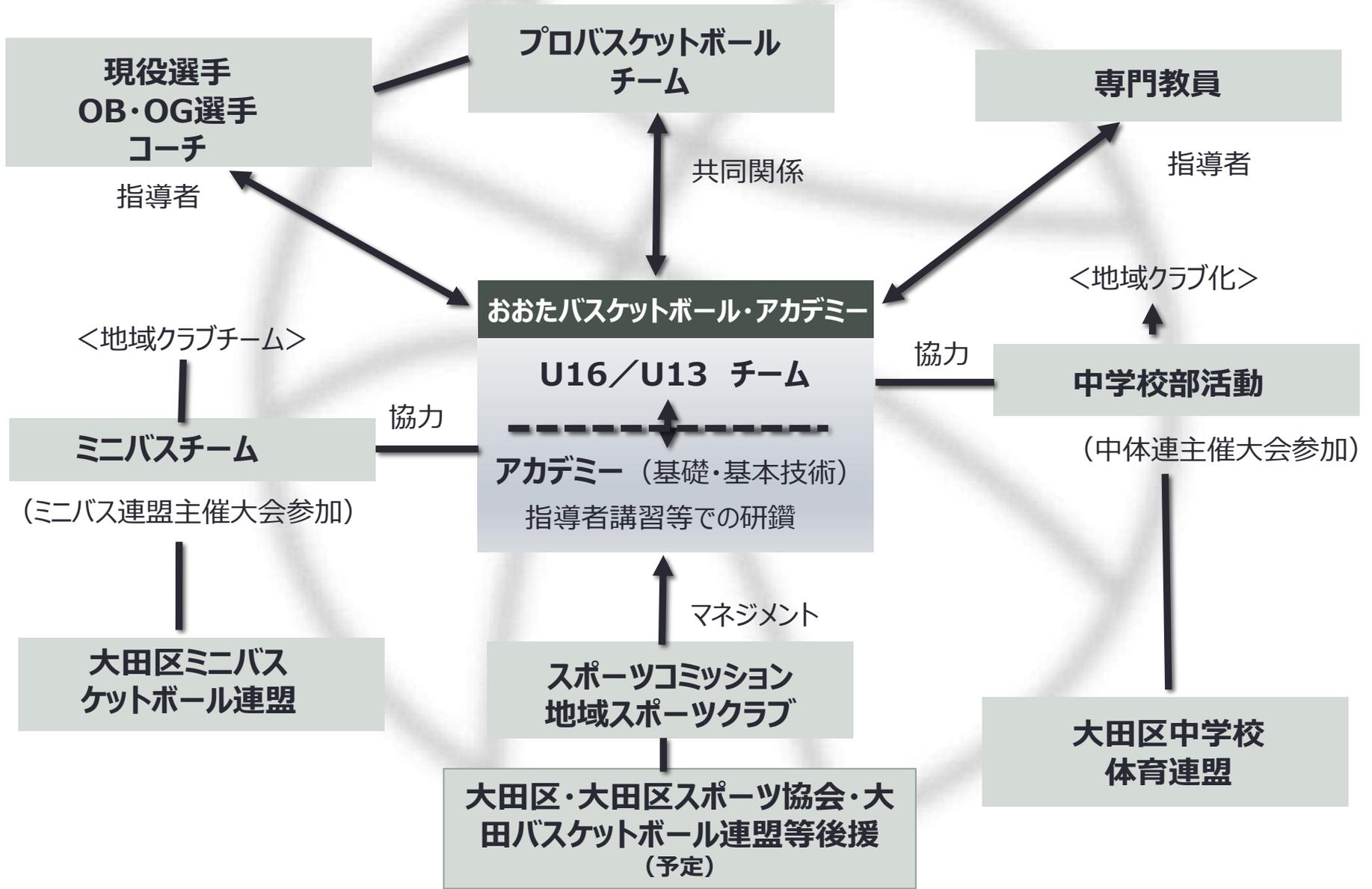
おおたバスケットボールアカデミーのご提案

<背景>

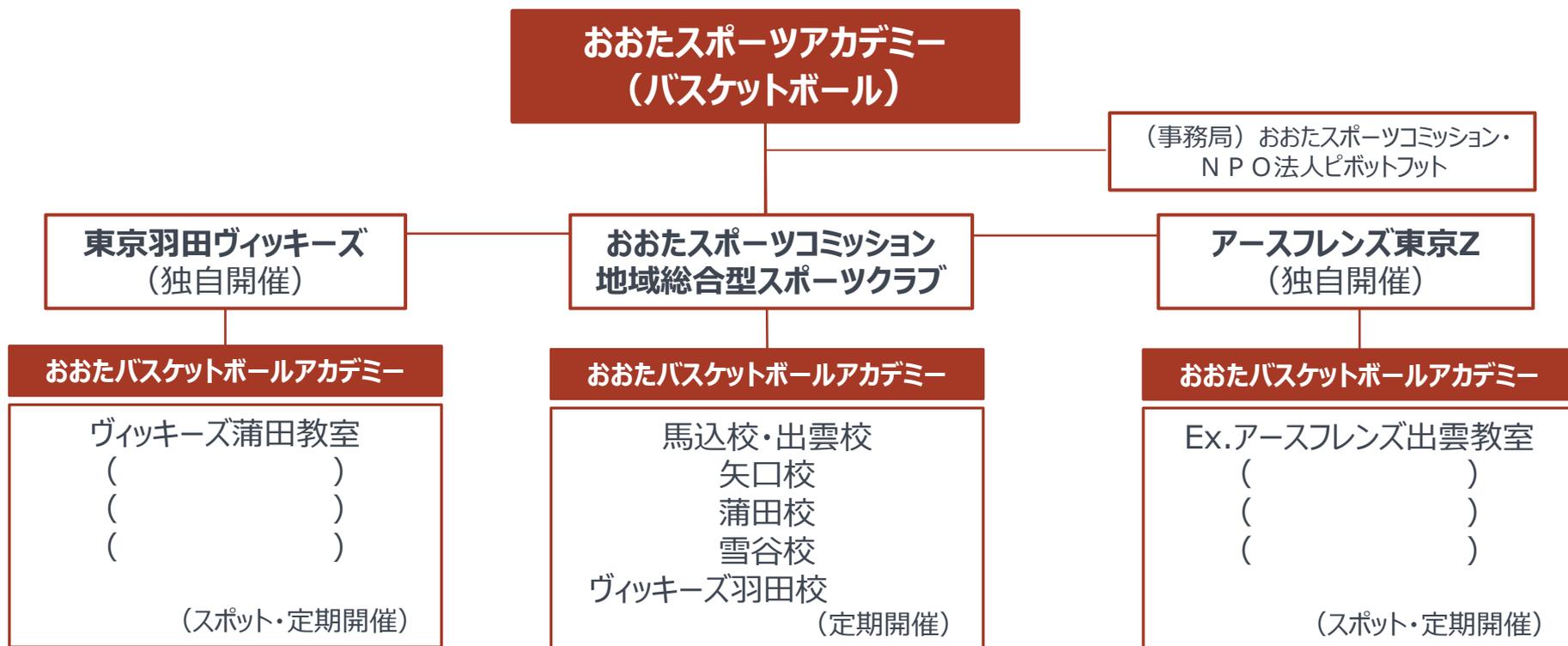
「OTA Sports United」は、スポーツ競技を区民共有財産と位置づけ、区民球団を中核にスポーツブランディングを構築。スポーツを中核とした、区民の繋がり、連携、一体感を創出するプロジェクトです

課題・問題点	対応策
<ul style="list-style-type: none"> ◎ アフターコロナ、ウィズコロナ時代 三蜜、ソーシャルディスタンス マスク着用、消毒 ◎ 子供の運動不足、体力低下問題 遊び場、子供の減少 スポーツ運動嫌いな子供の増加 楽しく気楽に行えるスポーツ運動の環境が少ない ◎ 中学校運動部 部活動指導者問題 教員の働き方改革、部活顧問の休日出勤 競技指導者とのミスマッチ、コンプライアンス順守 、ガバナンス 部活動の地域移行問題 ◎ 子供の将来の夢実現のために トップチームとの連携連帯 	<p>時間や、場所が限られる中、児童生徒の運動機会の安定的な確保は重要なテーマである</p> <p>継続的・安定的な場所の確保とキャリア指導者による、効率的、効果的な練習は必須となる</p> <p>アカデミーは、大田区内ミニバスチームや中学運動部活動との調整を計りながら、トップチームとも連携のもと、地域でのバスケットボールの普及とアスリートの育成を行い、将来のプロ選手の排出を目指します</p> <p>指導技術、マネジement研修講習会等の実施</p> <p>トップチームを頂点にした地域における新しいバスケットボールファミリーを創出します。</p>

おおたバスケットボールアカデミーと大田区関係団体との相関図



「おおたスポーツユナイテッド」構想へとつながる、「区民」による「区民スポーツ」の確立



- 主催： (一社) おおたスポーツコミッション・NPO法人ピボットフット
 共催： おおた地域スポーツネットワーク
 後援： 大田区・大田区教育委員会・大田区スポーツ協会
 (予定) 大田区バスケットボール連盟
 大田区中学校体育連盟バスケットボール専門部
 大田区ミニバスケットボール連盟
 協力： 東京羽田ヴィッキーズ
 (予定) アースフレンズ東京Z
 おおた地域スポーツネットワーク 各クラブ
 主管： (一社) おおたスポーツコミッションアカデミー事務局・NPO法人ピボットフット



都立蒲田高校 ダンス部地域からの応援提案

一般社団法人 おおたスポーツコミッション
NPO法人地域総合スポーツ倶楽部・ピボットフット
蒲田高校学校運営協議会委員 桑田健秀

地域、 OB・OG と共に

- **学校ブランディング**

蒲田高校の活動支援のためイメージ統一をはかります
ダンスをキーワードに統一感あるものにします
(シンボルマークデザイン等は生徒から公募採用)

- **イメージ向上、入学希望者増加推進**

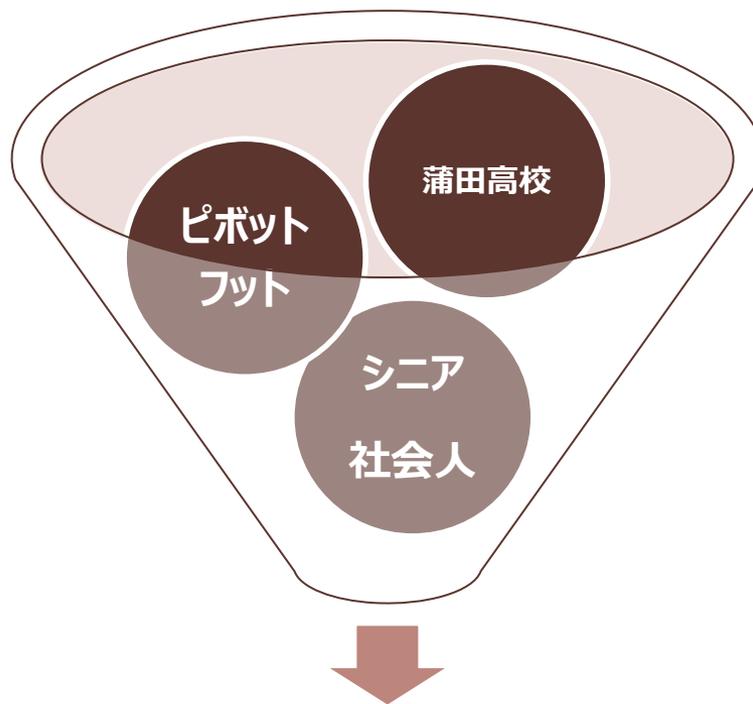
対外的にメディアに取り上げられる機会も増え
イメージ向上に効果的であり、統一感のあるスタイルは
好印象をあたえ、入学希望者の増加に貢献します

地域に愛され、世代を超えて「ファン」を作ります。

地元商店街、自治会、町会の皆様と共に「応援」できる環境を整備します

大田区 との関係

「OTA Sports United Project」との連携 ～スポーツのある街・賑わいのある街大田～



－ 事例 －

第一回蒲田ダンスカーニバル
2021.11予定

OTA-Unitedダンス 蒲田ファミリーズ

蒲田高校ダンス部 ー高校
蒲田中学ダンス部 ー中学
ピボットフットリズムダンスー小中学生

年間1～2回の地域交流会等の開催

ダンスをテーマとした地域コミュニティづくり

2020年11月3日



ゆいっつベースキャンプ プロジェクト

1. 目的と熱い理念

「青少年中心に大田区民」へコロナとの新たな生活スタイル「導入」への先進提案

「ゆいっつ」大田区青少年交流センターの役割と位置づけ(スポーツ・文化の拠点)

⇒多様な若者が「やりたいこと(自分)」を見つけ、主体的に取り組むことを応援する場の提供

(ベースキャンプ企画、産学交流会、HANEDA×PiO連携、中高生応援ボランティア制度)

⇒働く場所や時間の変化に対応する民間企業、商工会議所等と連携した場の提供

(企業研修会の開催、異業種交流会、スポーツ体験研修会、異文化交流会)

⇒地域総合型スポーツクラブ、スポーツコミッションを通じた、地域間交流の場の提供

(スポーツ体験会、スポーツツーリズム、各種スポーツ教室)

多面交流により「点でとらえる」から「面でとらえる」へ、新スポーツ健康ゾーンおよびOTA Sports United Projectの中核拠点として「ゆいっつ」大田区青少年交流センターを位置づける

2. 構想図概略



- 不登校支援児童生徒の支援について（文科省）
- 不登校児童生徒に対する支援推進事業（令和2年度新規）
- 子ども・若者育成支援推進法
- おおた子どもの生活応援プラン（R元・11月大田区）柱3居場所・包摂
- 大田区子ども・若者計画（R3年4月）

おおた企業 夏のスポーツ祭り 2018

プロジェクト計画書

2018.6.20

**おおた地域スポーツクラブネットワーク
おおた企業 夏スポ実行委員会**

はじめに

リオオリンピック・パラリンピック競技大会での日本選手団の活躍は、閉塞した社会において夢と勇気と元気を与え、スポーツの必要性とスポーツがもたらす効果は国民一人ひとりに深く刻まれました。また、国のスポーツ基本計画の見直しに合わせて大田区でも新たなスポーツ推進計画が策定され、スポーツに対する区民の期待も大きく膨らんでいます。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け国内のスポーツ行政は今大きな転換期を迎えています。

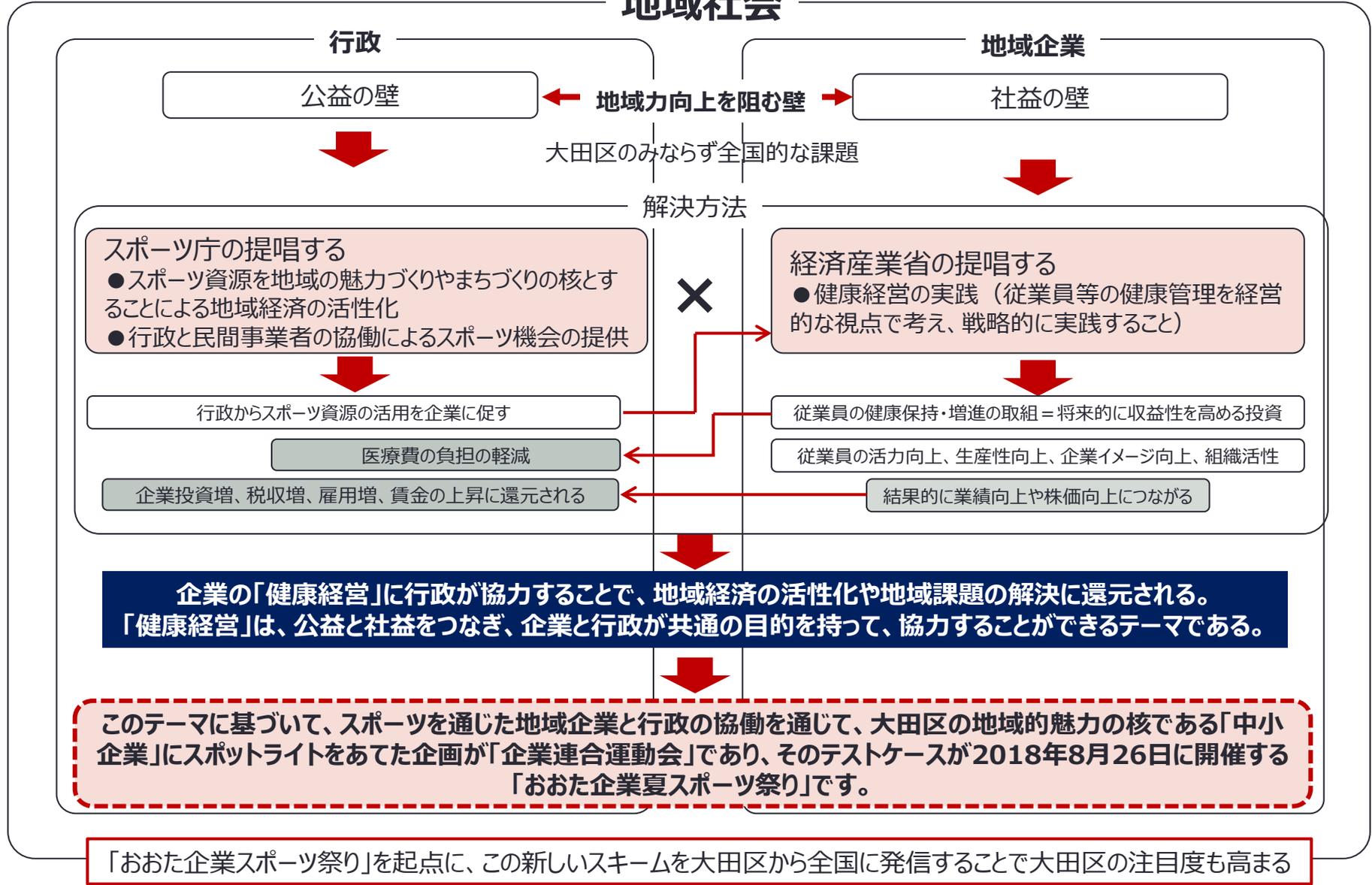
大田区は、2014年4月にオリンピック・パラリンピック担当が設置され、翌2015年4月にはスポーツ推進部門が教育委員会から区長部局に移管されるなど、2020年に向け全庁体制でスポーツ振興に取り組んでいるところです。その中で、地域スポーツを支えている大田区体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、障害者スポーツ団体、地域スポーツクラブなど地域の各スポーツ団体（チームやサークルを含む）の地域社会に果たすべき役割は、スポーツ振興にとどまらず、大田区の「地域力」向上にとって今後ますます大きくなるものと考えます。

地域力を最大限に発揮させるためには、大田区在住の企業及びその従業員と大田区が共通の目的をもって、相互に自主性を尊重しつつ、それぞれが持つ知識や技術等の資源を提供し合い、協力することも必要です。企業にとっても生産年齢人口の低下や経済・地域活動の縮小は死活問題であり、区と企業は共通の課題を共有しております。

大田区のシンボルといえる中小企業をはじめ、地域企業がスポーツの力により元気となり、そして、年齢、性別、障害、国籍に関わらず、誰もが参加できるスポーツを企業と行政が協働するためのツールとすることで「まちづくりと地域経済の活性化」に貢献できるものと考え、ここに新たなスポーツイベントを提案するものであります。多くの関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

開催趣旨

地域社会



開催趣旨

地域社会

少子高齢化→生産年齢人口の低下

行政

地域企業

社会情勢の変化 = 行政課題の複雑化

地域経済、地域活動の縮小

購買力の低下、生産力低下

行政単独で地域課題を解決することは困難な状況

地域経済の低下は企業にとって深刻な問題

地域力向上が共通課題

地域力が区民の暮らしを支えるために重要

地域力を支える必要性がある

地域力とは

団体・NPOの力

区民ひとり一人の力

事業者（企業・個人事業主）の力

行政の力

自治会・町会の力

共通の目的達成のために、相互の自主性を尊重しつつ、それぞれの持つ知識や技術を提供し合い、協力して取り組むことで生まれる地域の総合力

解決

- 防犯・防災
- 福祉
- 子育て
- 教育
- 産業振興
- 環境問題
- 国際交流
- まちの魅力づくり

解決

- 生活不安の解消
- 働く意欲の向上
- 生産性の向上
- 業績の向上
- 投資の向上
- 賃金の上昇

税込増／雇用増

両者が共通の課題を解決することを目的に協力することで得られる成果は、両者の利益のみならず、区民にも還元され、地域力の向上により、未来に躍進する国際都市おおたの実現に大きな推進力となる。

CONCEPT

2018年夏スポテーマ

健康経営の推進



「健康経営」をテーマに実施。健康経営は経産省を中心に展開しているが、広く企業に浸透しているとは言い難い。この現状を踏まえ、本イベントでは健康経営の浸透・体現をコンセプトに運営する。

具体的には、健康経営が浸透しない要因を、『経営者、従業員ともに関心度が低いこと』と捉え、両者が健康経営に関心を持って参加するように動機を与え、健康経営を体現する先進事例になることを目標に展開する。

さらに、スポーツ祭りを通して区内中小企業にPR・普及し参加企業を募集していく。

実施概要

◆運営

主催	おおた地域スポーツクラブネットワーク
共催	大田区
後援	<ul style="list-style-type: none"> ●（公財）大田区体育協会 ●（一社）大田観光協会 ●大田区理学療法士会 ●(株)ジェイコム大田 ●東京商工会議所大田支部
協賛	●(株)伊藤園 ●大田浴場連合会 ●ワタミ(株)
参加企業	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)金羊社 ●(株)くらしの友 ●(株)クラトモビルメイク ●グレイスホテル(株) ●(株)三光堂製本 ●サンユー建設(株) ●サンユーエステート(株) ●ジャパンガス(株) ●(株)GF ●(株)全国儀式サービス ●宝興産(株) ●(株)中央造園設計事務所 ●(株)巴商会 ●(株)文星閣 ●北斗建設(株) ●(株)ワークス <p>【合計：16社】</p>
運営協力	<ul style="list-style-type: none"> ●（一社）おおたスポーツコミッション●(株)スポーツワン ●羽田ヴィッキーズ ●アースフレンズ●(特非)ピボットフット●(特非)ヘアーズ ●ミズノ(株)
主管	おおた企業 夏スポ実行委員会

◆開催概要

開催日	2018年8月26日（日）	
開催時間	10：00～17：15	
参加資格	大田区に本社を置く企業の従業員およびその家族	
参加数	16企業 約500人を想定	
実施スケジュール	開場・設営	8：00～10：00
	開会式	10：00～10：35
	午前の部	10：35～12：25
	昼食	12：20～13：25
	午後の部	13：25～16：00
	閉会式	16：00～16：20
	懇親会	16：20～17：20

第一回おおた障がい者運動会2018

大田区から全国に向けて

企 画 概 要

2018.1

- 主 催：おおた地域スポーツクラブネットワーク
- 共 催：（一社）おおたスポーツコミッション
- 後 援：大田区、（公財）大田区体育協会、（一社）大田観光協会、
（株）ジェイコム大田、（一財）日本スポーツコミッション

「OTA Sports United Project」

近年、障がい者総合支援法などが整備され、障がいのある方やその家族が住み慣れた地域で暮らせる態勢が整えられましたが、その地域で生活する障がいがある方とない方の心のバリアフリー化は、未だ進んでいるとはいえません。

心のバリアフリー化の第一歩は、

同じ地域の障がいがある方とない方が、言葉を超えてコミュニケーションできる機会の創出

であることから、障がいがない方が身近に生活している障がいのある方を知ることが何よりも重要です。

そのためには、

- ①その機会を積極的・継続的に創出する役割を担う人や団体の存在
- ②地域の障がい者関連施設、障がい者本人とその家族、周辺住民の理解と協力
- ③行政の協力

がポイントになります。

特定非営利活動法人 大田区障がい者スポーツ指導者研究会は、スポーツを通じて障がいがある方とない方が、言葉を超えてコミュニケーションできる機会を積極的・継続的に創出する役割を担うため、地域スポーツクラブ、おおたスポーツコミッション、障がい者関連施設等関連団体と連携し、大田区の心のバリアフリー化を進めていくこととしております。

その第一弾として、大田区から全国に向けた情報発信を含め、「第一回おおた障がい者運動会2018」を企画いたしました。

本企画を手始めに、大田区の障がいがある方とない方が共同して暮らしやすい大田区を形成させていくだけでなく、大田区から全国に向け、障がいがある方とない方が共同して活動を行える環境整備に貢献していきます。

おおた障がい者運動会2018

■概要

大田区在住障がい者・家族・周辺住民が運動会形式でゲームを競い楽しむ。

■目的

- ① 言葉を超えてコミュニケーションできるスポーツを通じて、障がい者施設及びその周辺で生活する健常者と障がい者が交流し、健常者に障がい者のことを理解してもらう。
- ② 本企画を通して、障がい者施設・関係団体と地域スポーツクラブ・スポーツコミッション及び大田区行政の三位一体でのネットワークを構築し、障がい者に継続的な運動機会を提供できるようにする。
- ③ 障がい者施設内及び周辺住民との結束力・相互理解向上と心のバリアフリー化を推進する。

■開催日時

2018年3月25日（日） 10:00～15:30 受付9:20分

■開催場所

大森スポーツセンター アリーナ

■参加費 無料

■参加者 100人

- ・ ■主 催 おおた地域スポーツクラブネットワーク
- ・ ■共 催 (一社) おおたスポーツコミッション
- ・ ■後 援 大田区、(一財) 日本スポーツコミッション
- ・ (公財) 大田区体育協会、(一社) 大田観光協会、(株)ジェイコム大田
- ・ ■協 力 NPO法人大田区障がい者スポーツ指導者研究会、大田区手をつなぐ育成会
- ・ ■主 管 おおた障がい者運動会2018実行委員会
- ・ ■参加対象 参加可能な障がい者、家族、周辺住民
- ・ ■申込方法 専用申込書を使用(別紙)
- ・ ■告知方法 大田区障がい者施設、大田区手をつなぐ育成会、障害者団体にアナウンス&PRをする。

- ・ ■内 容 ① 開会式
- ・ ② 準備体操
- ・ ③ 玉入れ競技
- ・ ④ お昼休憩
- ・ ⑤ スポーツ模範演技
- ・ ⑥ 綱引き競技
- ・ ⑦ ダンスタイム
- ・ ⑧ 結果発表&表彰式
- ・ ⑨ 閉会式

スポーツツーリズム

クロスミントンの普及、発展に向けて

～日本発祥の地大田区より～

2021年9月9日

一般社団法人日本クロスミントン協会

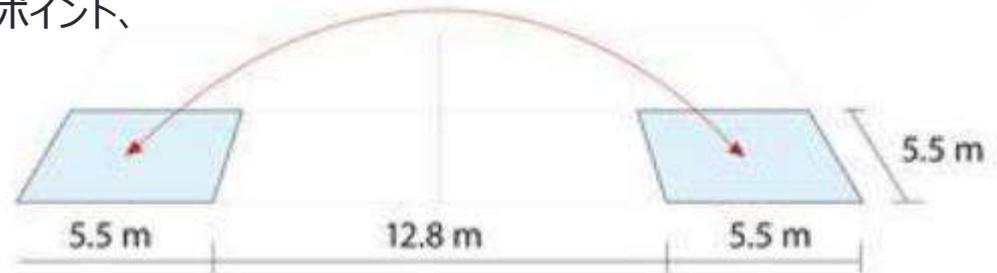
一般社団法人おおたスポーツコミッション

クロスミントンとは？

クロスミントンはテニスより細く軽いラケットで、スピーダーというプラスチック製の羽根を打ち合うスポーツです。バドミントンとテニスの中間のスポーツのイメージですが、最大の特徴はネットがありません。

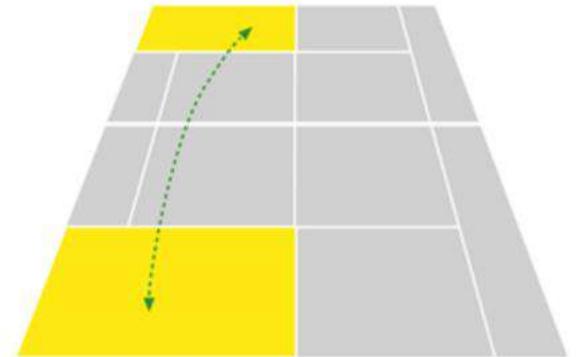


12.8m離れた5.5m四方の自陣と相手陣に分かれ、ラリーを行います。相手陣にスピーダーを落とせば得1ポイント、相手陣以外に落ちれば失1ポイントです。通常1セット16点先取で、3セットマッチで行います。



スピーダーはプラスチック製の為、初速から手元に来るまで、それほどスピードが落ちません。従って、低い軌道で直線的に打ち合ったり、高い軌道で相手陣後方を狙ったり、3次元的な攻め方が展開されます。またスピーダーの中心には穴が開いていて、飛ぶときに『ピューン』という爽やかな音がします。またバドミントンより風の影響を受けにくいので、公園やビーチなどの野外でも楽しめます。

試合は、1対1で対戦するシングルスと、同じコートサイズで2対2で対戦するダブルスがあります。日本では屋内でするイメージが多いですが、海外では屋外でも試合を行ったりします。テニスコートでちょうど2面が取れるサイズになってます。



地域スポーツクラブからメジャー競技へ

クロスミントンはドイツで生まれて、2004年に日本に入ってきた。東京都大田区の総合型地域スポーツクラブのピボットフットが初めて教室として導入して、地道に普及活動を続けた。

大田区からのリーディングを進め、ピボットフットで蒲田高校での授業を継続的に取組み。体験会も積極的に開催。その結果、現在、全国各地に40個のクラブチームがある。

2008年「日本スピードミントン協会」を設立し、2019年海外選手へのビザ発給など更なる飛躍の為に、一般社団法人化した。

ジュニアへの普及と地域への根ざす為に、全国の地域スポーツクラブやスポーツ推進委員への紹介を強化。2019年全国スポーツクラブ会議にてブースを設置して紹介。

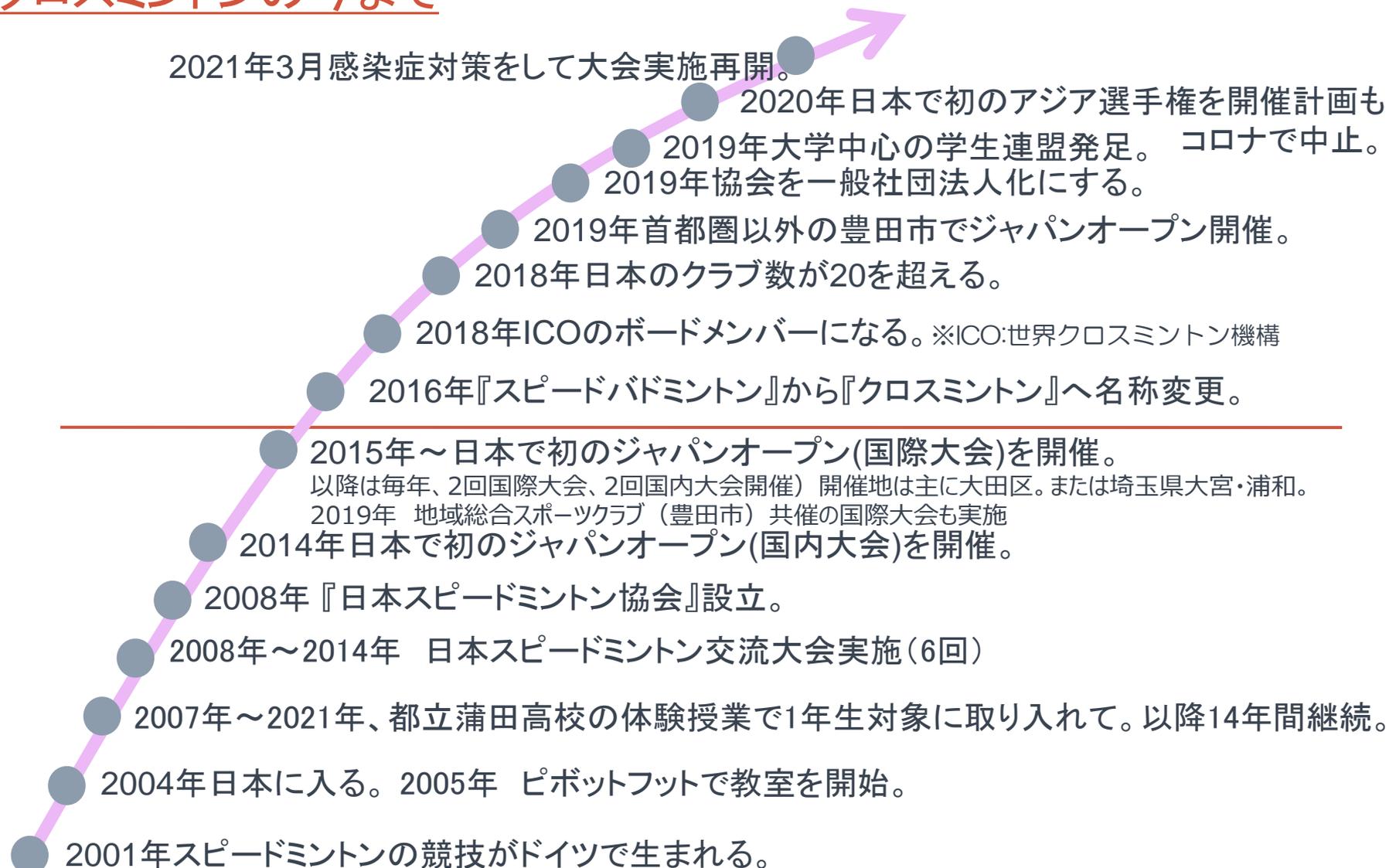
国内大会、国際大会を日本で開催し、海外選手にも来日してもらい、日本選手も海外の試合に参加し、金メダルを取るまで成長。大森スポーツセンターでの初めての国際大会では外国選手と地域、ボランティア、商店との交流がはかられた。

大学クラブの活性化の為に、2019年に学生連盟を発足。

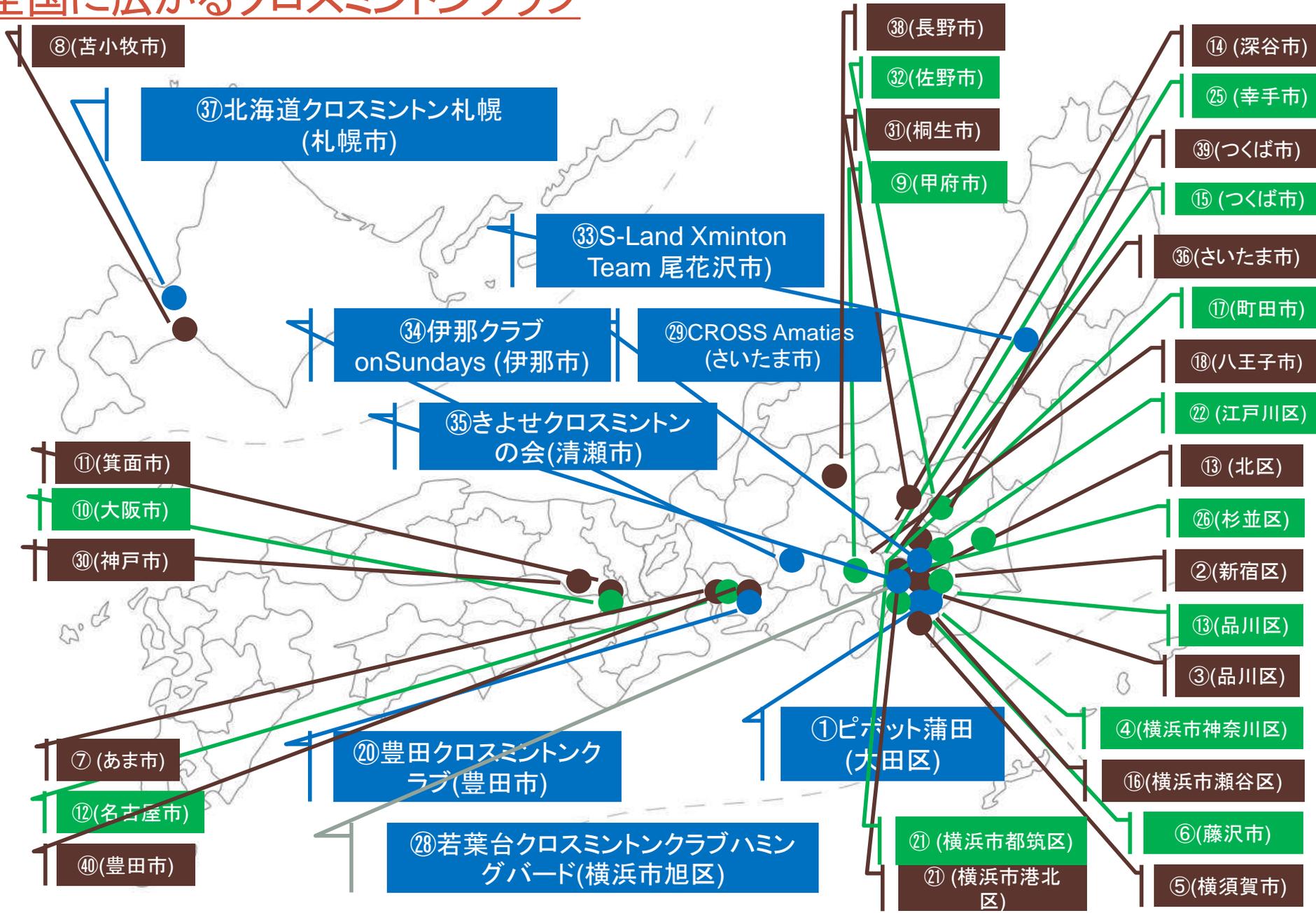
ゆくゆくは、日本各地にクロスミントンのクラブや協会を。

そしてオリンピックの種目に。

クロスミントンの今まで



全国に広がるクロスミントクラブ



大田区スポーツ医科歯科栄養の 実践コミュニティ提案（仮）

アスリートとアスリートを支えるすべての人の笑顔を守るために！！

- ◎ スポーツ医学・歯学・栄養学それぞれの専門家が大田区民の「ジュニア、ユース、トップ、シニア、ベテラン」アスリート、「指導者」（監督、コーチ、トレーナー）のみならず、各選手を支える「家族」を対象に、医療、歯科、栄養現場それぞれの実践を中心とした講演会、フォーラム、フェスタを開催いたします。
- ◎ 各ステージの選手がいかにして外傷を予防し、コンディショニングを整えていくのか、その実践方法やその実際をレクチャーしていきます
- ◎ 密になることを防ぐために講演会もオンライン形式に、体系立てて行って参ります。知識の共有も家にいながらも可能となります

講師・委員の構成

(1)学識経験者

（医師、歯科医師、薬剤師、栄養士、鍼灸師、アスレティックトレーナー、看護師、歯科衛生士）

(2)地域・区民

スポーツ歯学・栄養・
熱中症セミナー（仮）

スポーツ歯学・栄養・熱中症セミナー（仮）

2022年
5月5日（祝日）

〈概要〉

- 1) カスタムメイドマウスガード体験会
- 2) 歯科衛生士による歯ブラシ指導
- 3) アスリート食の献立
- 4) 熱中症にならないための水分補給



〈会場〉 新東京歯科衛生士学校
 〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2
<https://www.dh.ntdent.ac.jp/about/access/>

事務局：石井歯科器材



学校法人 東京滋慶学園
新東京歯科衛生士学校

スポーツ医学&
アスリートセミナー（仮）

スポーツ医学&アスリートセミナー（仮）



2022年
9月21日（祝日）

〈概要〉

- 1) スポーツ医学講演会
- 2) オリンピアンの講演



事務局：石井歯科器材

〈会場〉新東京歯科衛生士学校
〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2
<https://www.dh.ntdent.ac.jp/about/access/>



学校法人 東京滋慶学園
新東京歯科衛生士学校

障害者スポーツセミナー（仮）

障害者スポーツセミナー（仮）

2023年
2月11日（祝日）

〈概要〉

- 1) スポーツ医学
- 2) スポーツ歯学
- 3) パラリンピアンの講演



事務局：石井歯科器材

〈会場〉 新東京歯科衛生士学校
 〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2
<https://www.dh.ntdent.ac.jp/about/access/>



学校法人 東京滋慶学園
新東京歯科衛生士学校



主催：（一社）全国スポーツクラブコミッション

共催：（一社）おおたスポーツコミッション

「第一回 おおた健康応援ウィーク」の開催 報告と今後の展開について

後援：大田区、（公財）大田区体育協、おおたスポーツネットワーク、NPO法人大田区障がい者指導者研究会

協賛：（株）イトヨーカ堂、イトヨーカドー大森店

協力：NPO法人ピボットフット、NPO法人スポーツサンクチュアリ

2019/4/27 SCOPE



JSCC（全国スポーツクラブコミッション）主催「おおた健康応援ウィークinイトーヨーカドー大森店」



約1,500名※の店舗集客や放送視聴に依るPR効果につながるとともに
体験者のみなさまの健康意識醸成に寄与

～IY・参加者さらに地域の三者にとって有意義なイベントとして一定の成果を得る～



内容精査のうえ継続した取り組みに！さらに他地区開催の計画立案へ！
地域住民の健康意識を醸成する拠点および牽引役としてのIYの地位を確立

※開催四日間の参加者および観覧者の合計延べ数

おおた
健康応援ウィーク

延べ参加人数
450人

観覧者数
600人



おおた
健康応援ウィーク

延べ参加人数
450人

観覧者数
600人





◆「おた健康応援ウィークinイトーヨーカドー大森店」

【5つの体力測定】 4/17(水)～4/19(金)

参加数：130人 (3日間計)



受付 (はつらつ元気手帳記入)



握力測定～歩行測定



バランス測定



【かけっこ力測定】 4/21(日)



※測定の合間に椅子ヨガ (20min)

開催の報告

(高齢者向け) 足指筋力測定会

日時：2020/2/15(土) 10:00～11:00

場所：イトーヨーカドー大森店 3階フードコート奥特設イベントスペース

主催：(一社) 全国スポーツクラブコミッション (JSCC)

協賛：(株)イトーヨーカ堂

後援：大田区、(公財) 大田区体育協、おおたスポーツネットワーク

共催：(一社) おおたスポーツコミッション、イトーヨーカドー大森店

協力：NPO法人ピボットフット、NPO法人大田区障がい者指導者研究会

主幹：株式会社スコープ (JSCC事務局)



参加人数
49人





(赤ちゃん親子向け) 赤ちゃん親子育み体操

日時：3/2(月) 10:00～11:00

場所：イトーヨーカドー大森店 3階フードコート内キッズスペース

主催：(一社) 全国スポーツクラブコミッション (JSCC)

共催：(一社) おおたスポーツコミッション、イトーヨーカドー大森店

後援：(公財) 大田区体育協、おおたスポーツネットワーク

協力：NPO法人ピボットフット、NPO法人大田区障がい者指導者研究会、(一社) 22世紀親子からだ育て塾

協賛：(株)イトーヨーカ堂

主幹：株式会社スコープ (JSCC事務局)

※実施見送り (新型肺炎の拡大防止対策として2/25決定)

→改めて機会を設ける方向

今後の展開



行政との協働取り組みでブラッシュアップするとともに展開を拡大！



健康応援をテーマに、既存＋新規コンテンツ「2軸」での展開を開始

展開①

「健康応援ウィーク」を継続実施

大森店および他店舗で実施
定期参加を促すコンテンツを
継続的に実施（半期毎予定）とする
とともに一部コンテンツの見直しを図る

展開②

IY大森店において体操教室を実施

「おおた健康応援ウィーク」に参加し
健康に対する意識が高まった方に
更に健康になっていただく
コンテンツとして展開（隔週開催予定）

今後の展開

展開① 「健康応援ウィーク」

おおた
健康応援ウィーク

地域に根差した活動に！

実施タイミング

半期に1回（春・秋）

会場

大森店及びその他地区
（候補地：埼玉県川口市ほか）

集客目標

集客目標：700～800名/日

キーワード

健康・応援

<実施概要>

- 次回も集客が見込める「5つの体力測定&イスYOGA」「チアリーディング&リズムダンスパフォーマンス」は継続実施。
- 「かけっこ力測定」については、今回参加していただいたお子様たちが次回参加する可能性が低いため、新規コンテンツに刷新。
「5つの体力測定&イスYOGA」「チアリーディング&リズムダンスパフォーマンス」を中心に新規コンテンツを随時追加していく。

★スポンサープログラムも実施予定



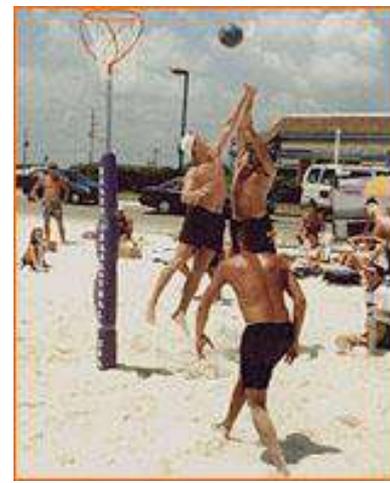
(仮題)
「OTA B-VILLAGE」
バスケットボール・ヴィレッジ

「バスケットボール」をキーコンセプトにして
人と文化が集まる「街」

企画提案
一般社団法人
おおたスポーツコミッション
理事長 桑田 健秀



バスケットボールの競技は多種多様 「ファン」の作り方も楽しみ方も多種多様



バスケットボールをキーにして「ファン」の楽しみ方をマルチに展開 スポーツと文化の親和性



ライブ・フェス (エンタメ・音楽)



アニメ・コミック



グラフィティ
アーティスト



ダンス



グルメ

ファッション (ブランド化)



インスタスポット



アート

B-village

サポートとコンテンツの提供

- ・バスケットトップチーム
- ・地域スポーツ団体
- ・エンタメ（プロアマ）
- ・アーティスト

運営とプロデュース

- ・ディレクション体制
- ・全体プロデュース
- ・スポーツイベント企画運営団体
- ・LIVEイベント企画運営



場所の提供と地域の理解

- ・行政（公共施設）のサポート
- ・周辺地域、商工会の協力
- ・スポンサー企業の提供
- ・積極的に参加する若者の募集

「OTA Sports United Project」

JR、私鉄駅のコンコースにバスケットボールのモニュメント設置
 蒲田・大森駅ビルに「ようこそバスケットボールの街大田区へ」の垂れ幕掲載
 大田区内の公園にバスケットゴールの設置
 羽田地区で「3×3」バスケコートを設置
 現状のムーブメントの象徴的モニュメントを設置



渋谷センター街



京都ミニバス碑



ニューヨークのストリートバスケ

SHIBATAストリートバスケットボール

SHIBATA STREET BASKETBALL BATTLE

CONCEPT
 3ON3 BATTLE
 PASSION
 GUEST LIVE
 CRAZY FOOD
 COLLECTION
 ONLINE STORE
 CRAZY DREAM

SHIBATA STREET BASKETBALL BATTLE

2020 12.13 SUN.
 秋田県新発田市の辻広場

YouTube
 12.13 SUN 13:00-
 ONLINE BATTLE

ONLINE

新潟 新発田市役所内
 ストリートバスケで街おこし！
 『SHIBATAストリートバスケットバトル』



秋田県 能代



[地域スポーツ振興組織]

大田ベースボールアカデミーの提案 (OBA)

大田ベースボールアカデミー(OBA)の背景

教員の働き方改革

週末の部活指導を敬遠する教員
と
もっと部活指導したい教員の活躍の場
(副業を含めた収入増の可能性)

教員の部活指導レベル格差

競技経験者の高い専門性
と
競技未経験教員の非専門性
(技術成長したい子供のレベル低下)

学校を基軸にした 地域ブランディング

学生と地域住民の交流が減少
と
地域ブランディングの実現可能性

グラウンド施設の有効活用

グラウンドが取れない民間チーム
と
夜間や週末に空きがある学校グラウンド
(開放の可能性)

大田ベースボールアカデミー(OBA)の役割

ヒト(教員/外部専門家)、場所、ノウハウのシェアリングによって、
継続的な地域課題解決とまちづくりを担う

シニア

- シニアリーグを発足させ、生涯スポーツとして健康増進、コミュニティを活性化
- 平日午前中の空きグラウンドや施設を有効活用

社会人

- 学生がグラウンドを使っていない空き時間を開放およびオンライン予約システム
- トップチーム(プロ球団を目指す大田ロケッツ)による競技レベル向上と地域貢献活動

高校生

- 教員の代わりに指導する外部専門家の派遣(教員の働き方改革)
- 指導/増収に意欲的な教員は土日に小中学生向けの技術向上アカデミーへ指導派遣(副業)

中学生

- 教員の代わりに指導する外部専門家の派遣(教員の働き方改革)
- 指導/増収に意欲的な教員は土日に小中学生向けの技術向上アカデミーへ指導派遣(副業)

小学生

- 平日下校後の技術アップアカデミー(クラブチーム等は平日の活動が難しい)を開催
- 民間への学校施設開放および管理

未就学児

- スポーツ普及の受け皿としてキッズアカデミー発足
- 子育て支援、運動能力向上支援の機会を創出

大田ベースボールアカデミー(OBA)の運営

おおたスポーツコミッション会員の硬式野球チーム「大田ロケッツ」の選手および関係者が大田ベースボールアカデミーを立上げ、運営 *ロケッツは新型コロナウイルスにより活動開始を延期中



- ① 空き施設・グラウンドの有効活用
- ② 中・高生向けに指導サポートする技術向上アカデミー運営
- ③ 目的やレベル指導者派遣(専門性ある教員/外部専門家)
- ④ ジュニアアカデミー開校による運動能力向上とスポーツ普及
- ⑤ シニアリーグ開始による健康増進、コミュニティ活性化
- ⑥ 地域ブランディング、交流イベントの開催

(例)中学・高校への指導者派遣候補者

- ① 指導者として甲子園2度出場した元私立高校監督
- ② 慶応義塾大学OBで高校野球指導歴20年の元私立高校監督
- ③ その他、高校野球指導経験がある候補者3名

中学・高校を基軸にした
アカデミー×エリアブラン
ディングに着手

2021年4月2日

2021年度スポーツスペース・ボードレスプロジェクト 小中学校施設有効活用

総合型地域スポーツクラブによる学校体育施設の、一般開放や社会体育施設として、地域スポーツの場としての有効活用推進の施策

(一社) おおたスポーツコミッション

NPO法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット



地域スポーツクラブの果たすべき役割

WITHコロナ時代の働き方と生活習慣の変化

- ・テレワーク、在宅勤務、オンライン会議、時差出勤の定着
- ・プライベートの外出でも「密」を避ける流れの中で少人数、個人化がすすむ

<短期的>

- ・人々の生活の中で、人との接点を持たずにできる運動(筋トレやランニング等)が活発になる

<中長期的>

- ・加えて、効果的/効率的な健康管理・運動管理への意識が高まる
- ・酸素飽和度、心電、心拍などのデータをモニタリングし、運動のアドバイスに役立てるアプリ、スマートウォッチの普及
- ・リモートワークで深刻化する軽度の健康課題を、自宅で解決するための運動器具の普及
- ・YouTubeを代表とする動画によるエクササイズの普及
- ・要介護者など、従来の健康問題が更に悪化してしまう可能性のある層に対しての運動指導、予防指導の必要



従来の人々の移動の変化

- ・居住と働き場所の近接 = 平日の日中人口の変化 新たな運動ニーズの発生
- ・地域コミュニティの重要性を再認識 ⇒ 地域内運動施設の使用率UP 場所の取り合い



「運動場所の確保」と**地域の体育施設「資産」の有効活用**する必要性が高まっている

- ・地域の活動内容を把握し、**地域コミュニティを知る「管理者」の必要性が増してくる**
- ・効率的に「運動の場」の提供と**公平性の担保が重要となる**
- ・小中学校の運動施設を学校と地域でバランスの良い有効活用が今後の部活動の地域化を含め望まれる
⇒**利便性の良い、システム・アプリの導入でペーパーレスでの事務効率化と管理者の確保が必要となる**

＜学校施設開放の今後についての提案＞

「事務局設置」と「システムの導入」による具体的な対応策

事務局設置効果

事務局設置による施設使用「調整会議」への対応 目的：「三密軽減」「感染防止」のための措置

- ・1中学校区と2～3小学校を網羅する地域での調整をする「事務局」を地域中心に設置
- ・施設開放調整会議の開催は年2回の実施（4月と9月 近況報告と状況把握）を原則とする
- ・既存団体の優先権を考慮し、既存団体の場所確保は担保する（安定的なカリキュラムの提供の為）

コンプライアンス順守と対応管理 目的：施設保全、感染症予防の清掃・除菌、施設利用者の把握

- ・利用する団体の基準要件を明文化しコンプライアンス順守を担保する
- ・利用状況が悪い団体に対して、教育委員会と連携して警告する

新規参加者への対応 目的：施設利用者の把握、地域住民への公平性の担保

- ・新規参加団体は、定期利用希望日の空き状況を調整して受け付ける
- ・スポット利用は、事務局が随時受け付け調整を行う

学校、地域間連携の業務 目的：急な空き時間の有効活用、学校教職員の負担軽減

- ・施設使用での優先順位を明確にする ①学校行事、部活動 ②地域自治会等の行事 ③既存団体の活動

<学校施設開放の今後についての提案>

「事務局設置」と「システムの導入」による具体的な対応策

システムの導入効果

学校、地域間連携の業務 **目的：学校部活動の地域へのブレイクダウン**

- ・部活動時間外、休日を含めた指導員との共有、将来の部活地域化における受け皿の確保

事務作業の軽減と情報公開の公平性の担保 **目的：申請承認フローの軽減、非接触機会の創出**

- ・スケジュール管理についてシステムの導入で効率化していく
- ・情報の適時開示で、施設の満空状況を公開し、空いている施設の有効利用を推進する

顧客満足度の向上について **目的：IT化の推進、今後は各種データとの連携（マイナンバー連携等々）**

都立雪谷高校 部活動（当面運動部） 地域からの応援提案

一般社団法人 おおたスポーツコミッション
NPO法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット
雪谷高校学校運営協議会委員 桑田健秀

ご提案 について

「都立雪谷高校運動部活動 応援提案」

学校の教育力とスポーツ指導者の持つコーチ力と地域でのサポート力が協働し、さらには先生方の働き方改革の一環を地域が応援するため

以下の4点を柱としたご提案を申し上げます

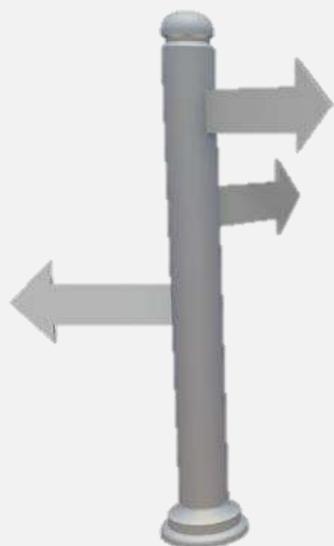
I .部活動顧問と連携して「生徒を支える」

- ①ガイドライン、コンプライアンス、指導者について
- ②生徒への「部活動相談」の機会をつくる

II .「地域と共に愛される雪谷高校」

- ③部活動を軸にした学校ブランディング
- ④イメージ向上、入学希望者増加推進

※都立高校では初めての試み



I. 生徒を 支える



① ガイドライン・コンプライアンス順守の指導者

外部指導者の育成と派遣

熱の入った指導での「行き過ぎ」を防止するため
部活動時のケガ、事故を未然に防止するため

② 生徒の相談機会を作る

生徒の部活動での悩み相談の機会を作る

スポーツ選手に向かうための進学進路

(ex.実業団、プロ、海外留学等) 相談と助言

生徒のキャリア支援 (アスリート、指導者、コーチへ)

生徒の学業面も専門家と協働でフォローする

顧問と地域が連携し学校運動部活動における生徒の
「技術面」「メンタル面」「学業面」をフォローする

Ⅱ.地域と 卒業生と 共に



③学校ブランディング

部活動支援のためイメージアップを応援します
応援グッズ、Tシャツ、雪谷高校グッズ等でのイメージアップを
サポートします

(シンボルマークデザイン等は生徒からの公募採用)

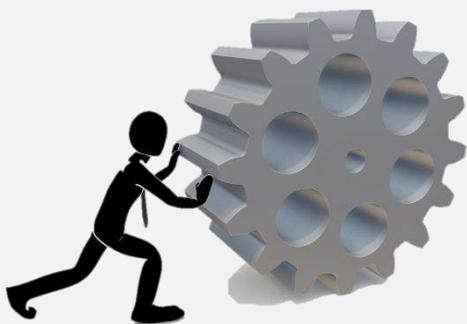
④イメージ向上、入学希望者増加推進

対外的にメディアに取り上げられる機会の多い、部活動と
文武両立はイメージ向上に効果的であり、
好印象をあたえ、生徒が来たくなる学校づくりに貢献します

地域に愛され、世代を超えて「ファン」を作ります。

**地元商店街、自治会、町内会の皆様と共に「応援」できる環境を
整備します**

応援組織 について



「都立雪谷高校運動部活動 応援組織」を地域に創設します
顧問・学校ともよく連携した運営を行う（当面運動部活から推進）

（仮称） ex.NPO等公益法人 雪谷Athletic Association

企画運営

ブランディング企画：

イメージした具体的な事業に見える形に整理し実行する
活動資金の調達と部活動への支援

管 理

スケジュール管理：

具体的な部活動の日程調整

指導者派遣、指導者教育：

適切な指導員のマッチングと指導者の管理、教育

部活動相談窓口：

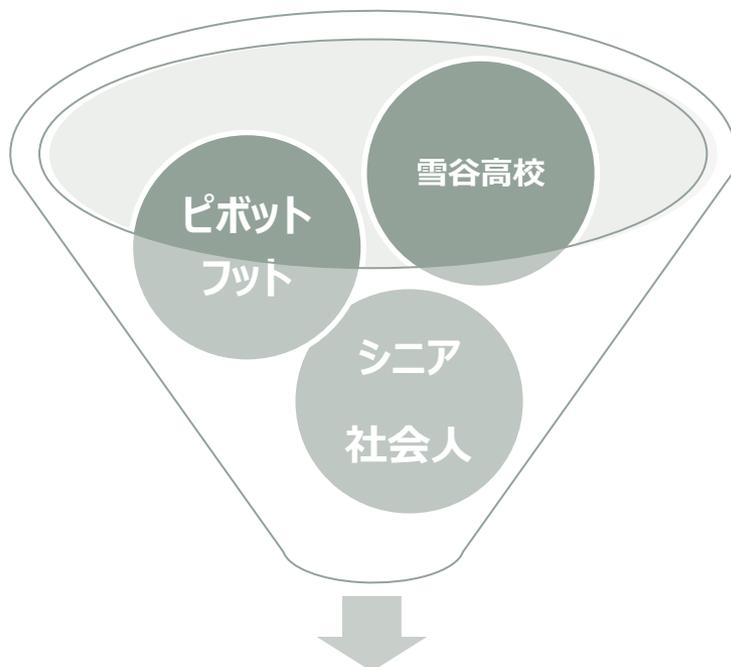
生徒、部員の各種相談窓口

※部活動は今までの活動で活性化を目指し、部活動で困ったことの
相談窓口として対応する

大田区 との関係

生徒と地域 の為の持続 的運用

「OTA Sports United Project」との連携 ～スポーツのある街・賑わいのある街大田～



— 事例 —

第一回雪谷チアリーディング
交流会
2022.2予定

OTA-Unitedチアリーディング
雪谷ファミリーズ

年間1～2回の地域交流会等の開催

Ex.チアリーディング

- | | | |
|---------|-----------|-------|
| 雪谷高校 | (クーガーズ) | —高校 |
| 大森十中 | (クルセイダース) | —中学 |
| 東調布中 | (トレジャーズ) | —中学 |
| ピボットフット | (ヴィッキーズ) | —小中成人 |
| 〃 | (タートルズ) | —幼小中 |
| 〃 | (ビリーブス) | —小学校 |

大田区でのホッケー振興スキーム提案

2020東京五輪レガシー



する

- 学校・公共施設
- 地域スポーツクラブ
- スポーツ推進委員
- マイホッケープラス



みる

- 日本ホッケー協会
- 地元チーム結成
- おおたケーブル
- 国内外大会誘致



ささえる

- 大田区・品川区
- 地域スポーツクラブ
- 多文化共生
- 協会連盟の結成



つくる

- 中小企業
- 産業振興
- 観光協会
- 用品用具製造

おおたスポーツコミッション

ホッケーによるおおたスポーツレガシーの目標

大田区スポーツ健康ゾーン確立
ホッケー教室・試合定期開催

体験会・イベント・教室多
数開催
ホッケー日本戦満席!!
おおたホッケーチーム

2020年
東京五輪

2024年
パリ五輪

スポーツ観戦文化定着
ホッケーの聖地

2028年ロ
ス五輪

2032年
??五輪

大田区から日本代
表選手輩出!
応援イベント開催

おおたオンラインウォーキングの提案

1. 健康ウォーキングマップWIFI機能搭載自動販売機連携
2. おおた健康応援ウォークアプリ（仮称）開発

大田区専用アプリのカスタマイズ

企業との共同開発事業

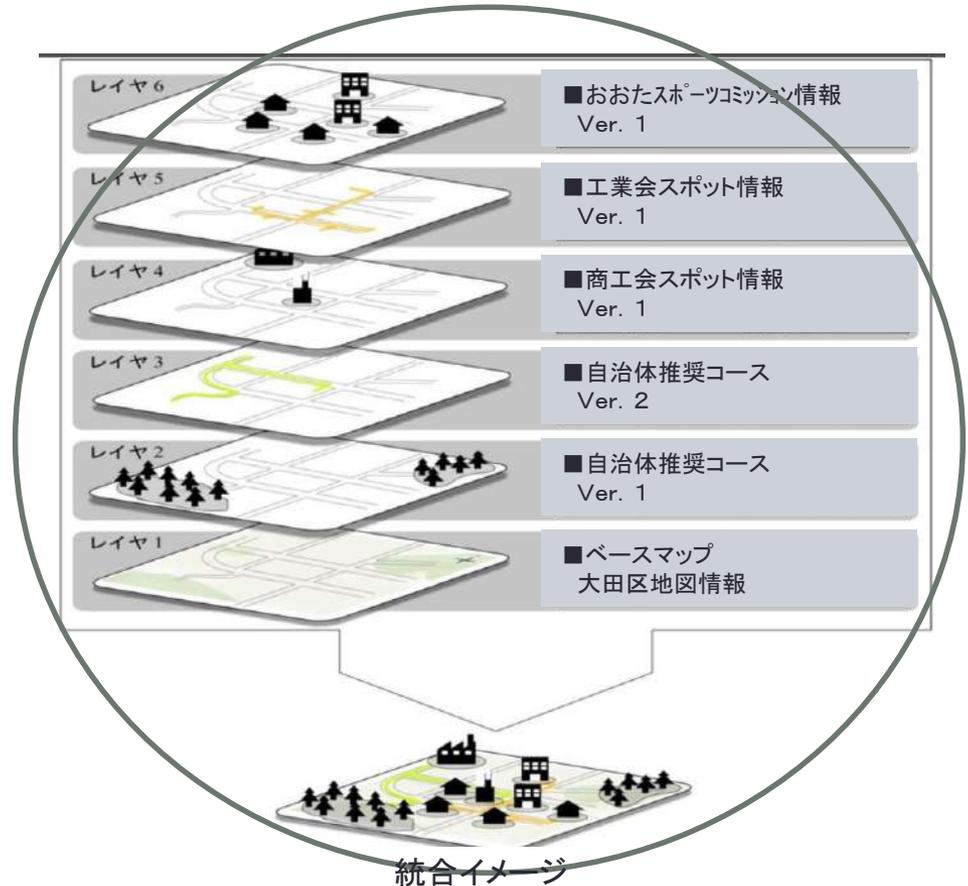
おおた健康応援ウォークアプリ（仮称）開発

「健康増進」「自分の住む街を見直そう」をテーマにした街中ウォーキング

- 観光課推奨コース>>> 商工会・工業会の紹介>>> OSCインフォメーションなど
- …各種情報（区内リソース）を統合し、**健康×街情報のプラットフォーム＝アプリを開発**



イメージ



<既存>

区内 看板・標識の設置
・ウォーキング、ランニング
コース



<新企画>

コース内 チェックポイント

●設置

- ・Wifi機能自動販売機
- ・自動販売機ラッピング
地図をラッピング
- ・ツールの導入
スタンプラリー



<効果>

自動販売機を看板・標識の代
替えとして利用する効果

●情報発信拠点

WIFI搭載機による、エリア
内情報発信拠点とし、ルート
情報、ゲーミング機能などソ
フトの導入により効果的な
ユーザーサービスが可能とな
ります。

●設置費用軽減

自動販売機の側面へのラッピ
ングを利用して、看板や標識
の新規、更新設置の費用を安
価にし、メンテナンスも軽減
されます。

